

特70
153

三橋謹師

保險法

非賣品
以謄寫替筆寫

保險法目次

總論

第一節 保險契約之意義

第二節 保險契約之性質

第三節 告知義務

第四節 保險料

各論

第一章 損害保險

第一節 總則

第二節 火災保險

第三節 運送保險

一

一〇

一九

三七

四五

四五

八四

九一

目次完

保險法

總論

三 橋 野 口 氏

第一節 保險契約ノ意義

保險契約トハ當事者ノ一方カ報酬ヲ受ケテ不確定ニシテ且ク有害
ナル事或ハ事故ノ發生スル場合ニ他方ニ對シ其ノ事故ニヨリ生ゼル
損害ヲ填補シ惹クハ一定ノ金額ヲ支拂フ一キニトテ營業スル者ノ独
立ノ契約ナリ

松本博士所説 (保險契約ノ意義)

保險契約トハ當事者ノ一方カ一定ノ不確定ナル事故ノ發生セル場
合ニ於テ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル者又ハ一定ノ金額者ク
ハ年金ノ支拂其他之ニ類似スル給付ヲナス可キニトテ給スルニ依リ
テ成立スル有償契約ヲ云フ 但シ此ノ契約ノ營業トシテ成サルト事

ヲ要ス 又一定ノ金額若クハ年金ノ支拂其他之ニ類似スル給付ヲ目
的トスル契約ニ付テハ事故ニ依リ生シタル需要ヲ充足スル爲メニ其
給付ヲ爲スノ趣旨カ因得喪約ニ通スル一般觀念トシテ在存スルモノ
ナルコトヲ要ス

抑モ保險契約ニハ損害保險契約ト生命保險契約トノ區別アルコト
勿論ナレトモ或ル邊者ハ損害保險契約ハ實際上ノ損害ヲ填補スルコ
トヲ終末スルモノナルニ生命保險契約ハ或ル不確定ナル事故ノ發生
セルトキ其ノ事故ノ爲メ填補ヲ必要トスル損害ノ生スルト否トヲ向

ハス一定ノ金額ヲ支払フコトヲ約束スルモノナルヲ以テ此ノ二種ノ
保險ヲ包括スル定義ヲ下スコトハ不能ナリト主張スレトモ元來此ノ
二種ノ保險ヲ如斯ニ分スルコトハ正當ナラス 生命保險ト雖モ保險
契約者ヨリスレハ不確定ノ事故ノ發生ノ例 被保險者ノ思ヒ掛ナキ
時期ニ死スルカ爲メ損害ヲ被ルコトアルハ之 唯損害保險ニアリ
テハ損害ヲ立証シ以テ之ヲ填補セヨルノモノナルニ生命保險ニアリ
テハ損害ノ証明ヲ要セズ豫メ定メ置ケル金額ニ支払フト云フニズヤ
ス 故ニ此差違ヲ心得置ケル此ノ西種ノ保險契約ヲ通シテ定義スル
コトハ敢テ不當ニアラス 右ノ定義ハ我カ商法カ損害保險ト生命保
險トニ通スル総則ヲ設ケス 二者ヲ併ヘテ規定セル趣旨ニモ反スル
モノニアラス 蓋シ我商法カ此ノ二種ノ保險ヲ併テ規定セルニ止リ
西者ヲ通シテ適用セヨルハ之總則ヲ設ケザリシ所以ハ立法者ニ於テ
如斯スルコトヲ以テ便利ナリト認メヨルカ爲ニ外ナラス 根本的ニ
二種ノ保險カ性質ヲ異ニシ以テ相混シタルモノト考ヘタルニ非ザラン

ハナハシ 尤モ人ニヨリテハ生命保険ハ名ハ保険トシテモ其実保險ニ
アラスト論スルモノナリ 其然我邦法ハ固ヨリ如斯キ解ヲ採ルモノ
ノモリヨリテ生命保險ニ生命保險トモ保險ノ一種ト看做シ唯之ヲ損害保險
トノ位ニハ就遠セシカ如キ蓋遠マカニ爲メ便宜上併ヘテ規定セルニ
スルニ 其然如斯損害保險ト生命保險トテ全然分離シテ規定セル以
上ノ損害保險ノ規定ハ直チニ之ヲ生命保險ニ準用スルヲ得ス 又生
命保險ニ于テモ規定モ之ヲ損害保險ニ準用シ得シト云ハサルハカ
ス 然ルニ凡テノ保險契約カ常ニ明確ニ損害保險若クハ生命保險カ
何レカ一方ニ該當スルハ可ナレトモ時トシテハ兩者ノ中間ニ位スル
カ如キ性質ノ保險契約ナリ 所謂疾病保險、傷害保險ノ如シ
如斯モノニ對シテハ我邦法ノ採用セルカ如キ規定ノ体裁ハ不便ナ
リ

今就述セル保險契約ノ意義ヲ再説スレハ
1. 保險契約ハ不確定ニシテ有害ナル事故ノ發生ニ于シテナサルハ

契約ナリ

元來保險ノ制度ハ他人カ或ル事故ノ爲メニ被ル損害ヲ引受クル
コトヲ目的トシテ設ケラレタルモノナルヲ以テ損害ヲ生シ得ハハ
事故ニシテ而モ其ノ事故カ發生セズシテ止ムカ或ハ發生スルモ果
シテ如何ナル時期ニ發生スルマ当事故ニ於テ予知シ得サル場合ニ
其ノ不安ヲ緩和シ損害ヲ少カラシムル爲メ蓋ニ保險契約ヲナスモ
ノナリ 故ニ始ヨリ發生スルコトノ確定シ且ツ何等損害ノ生セザ
ルハハ事故ニ付テハ他人ヨリ保護ヲ受クルノ必要ナシ 故ニ保險
契約ノ要素トシテハ不確定ニシテ且ツ有害ナル事故ノ發生ニ于シ
テ契約ヲナサルコトヲ必要トス

2. 保險契約ハ損害ヲ填補スルハ一定ノ金額ヲ支払フコトヲ約束ス
ル契約ナリ

蓋シ保險ノ制度ハ前述ノ如ク或ル事故ノ爲メニ他人カ被ル損害
ヲ引受クルコトヲ目的トシテ設ケラレタルモノナルカ故ニ証明シ

マヲ論セズ。直接ニ損害ヲ引受ケ即チ填補スルコトヲ約束スルモノニシテ此ノ特徴ヲ示ス為ニ独立ノ契約ナリト云フ文字ヲ使用セルナリ。

4. 保険契約ハ有償契約ナリ

保険契約ニセヨ其他ノ担保契約ニセヨ義務ヲ負担スルモノハ主タル債務者ヨリシテ報酬ヲ受ケルニトイランモ契約ノ相手方アル債権者ヨリ対償ヲ受ケルコトナシ。換言スレバ相手方ハ其ノ主タル義務者ノ義務不履行ノ為メ被ルヘキ損害ニ付キ他人ニ報酬ヲ受シテ其モノヲシテ之ヲ引受ケシタルモノニイラス。然レモ保險契約ニテリテハ保險者タルモノハ必ズ一定ノ報酬ヲ相手方ヨリ取り之ト交換的ニ損害ヲ引受ケル地位ニ立シモノナリ。此ノ報酬ヲ保險料トイフ。相手方ハ此ノ保險料支払ノ義務ヲ負担スルカ為ニ損害ノ引受ヲナサンコトヲ約束スルモノニシテ此ノ干係ナキトキハ保險契約成立スルコトナシ。但シ此ノ報酬即チ保險料カ金錢ヲ

以テ支払ハルヘキカ又ハ其他ノ財産ノ給付ニテモ可ナルカ又ハ一時ニ支払フヘキカ數回ニ分割シテ支払ヲナシ得ヘオカ等ノ事ハ別問題ナリ。往々保險料ノ全部スハ一部ノ支払ヲ受ケタルトキニ新メテ保險者ノ責任カ開始スル旨ヲ約束スル場合マレトモ之レ契約カ保險料ノ支払アル迄成立セストノ意味ニテラス。相手方ニシテ保險料支払義務ヲ負担スル以上ハ契約成立ヲ妨ケス。其ノ義務ヲ先ツ履行スルコト、契約ノ成立ト云フコト、ハ之ヲ分離シテ考フヘキモノトス。前人ニヨリテハ保險ハ元來一定ノ設計ニ從ヒテ為サルヘキモノナリ。漫然報酬ヲ受取リテ他人ノ損害引受ヲ約束スルト云フカ如キハ無謀ニ亦極マレリ。故ニ保險契約ノ意義ヲ究ムルニ當リテハ一定ノ設計ヲ立テ之ニ從ヒテナスモノタルコトヲ示ス必要アリト論スルモノアリ。保險ヲ營業トシテ行ハントスル以上ハ論者ノ如ク一定ノ設計ニ從ヒテナスコトヲ要シ統計的ニ事故発生ノ場合ヲ考ヘ之ヲ根拠トシテ保險料ヲ算出スルニアラサレハ

引合フモノニイラス 其然之レ等ハ保險ヲ經濟ノ方面ヨリ觀察
シテモヒタルモノニシテ法律的意義ヲ定ムルニ當リテハ如斯キコ
トヲ示スノ必要ナシ 蓋シ法律上ハ保險者ハ統計的基礎ナク保險
料ヲ定メザリトスルニ莫ク契約カ止ニ達ハタル要件ヲ充ヌ以上之
ヲ保險契約トシテ得ハナリ

第二節 保險契約ノ性質

保險契約ハ諾成契約ナリ 蓋シ保險契約ハ損害保險タルトモ生命保
險タルトモ論セズ當事者ノ一方カ(保險契約者) 保險料ヲ支払フコ
トヲ約シ他方(被保險者)カ事故發生ノ場合ニ損害ヲ填補スルコトヲ
約シメハ一定ノ金額ヲ支払フコトヲ約シ其ノ合意、シヨリテ直ニ
成立スル契約ナレハナリ 尤モ普通保險会社ノ契約ニモハ保險者
ノ責任ハ第一回ニ保險料額收メトキヨリ始マルモノト規定シマリテ

實際上此ノ約款ノ如ク行ハルト最モ之レ故ニ之述ハタルカ如ク相
手方カ義務ヲ履行セサル以上ハ自己ノ義務ヲ履行スハキ地位ニ立テ
メトノコトヲ明カニセルマテモ之ヲ契約ノ成立カ保險料支払ト云フ
事實ニ繋レルモノト認ムヘカラス 唯ニ我商法ニ依リテモ保險契約
ハ合意ノシニヨリテ成立スルコトヲ明カニセリ(三八四、四二七)
尤モ當事者カ特約ヲナシニ保險料ノ全部スハ一部ノ支払アルマテハ
保險契約成立セサルモノト定ムルコトヲ妨ケス 然モ之カ爲ニ保險
契約カ諾成契約タル性質ヲ變スルモノニイラス 蓋シ如斯場合ハ保
險契約ノ成立ヲ爲ル金額ノ支払ト云フ条件ニ繋フシメタリト云フハ
ケレハナリ 如斯保險契約ノ成立ハ單純ナル合意ヲ以テ足り別段ノ
意思表示ナク限り保險料支払ヲ契約ノ成立ニ干保ナシト云フモノ之ヲ
以テ保險料ノ支払ヲ怠ルコトハ保險契約ニ何等ノ影響ナシト考フル
ヘカラス 蓋シ保險契約者ニシテ保險料ノ支払ヲ怠ル事實ヲランカ
保險者ハ契約ヲ解除シ得ヘケレハナリ

保險契約ノ性質ヲ以テ諾成契約トナシ苟クモ當事者ノ意思カ合致
 スレハ当然契約ノ成立スルモノト見ル以上其ノ契約ノ申込及承諾ニ
 付テハ凡テ他ノ契約ノ場合ト異ナルハキ理由ナシト云ハサルヘカ
 ス然ルニ實際上或ル人カ保險会社ト保險契約ヲ締結センコトヲ欲
 スル場合ニハ先ツ保險会社ノ制定セル一定ノ用紙ニ契約申込ノ旨ヲ
 記入シテ保險会社又ハ代理店ニ交付スルコトヲ通常トス然ルニ
 会社ニ送キ直接申込ヲナス場合トモ会社ハ直ニ承諾ヲ与フルモノ
 ニテラメシテ種々ノ調査ヲナシテ然ル後ニ諾否ノ意思表示ヲナスモ
 ノナリ然ルニ商法ニ六九条ニヨレハ対諾者間ニ契約ノ申込ヲ受ケ
 タルモノカ直ニ承諾ヲ与サハルトスハ申込ハ其効力ヲ失フトアリテ
 之カ保險契約締結ノ場合ニモ適用セラルヘキモノナルベ如何トイフ
 ニ保險ノ申込ニ付テハ取引上ノ慣習ニヨリ申込者ハ相手方ニ対シテ
 承諾ヲ与スニ相当ノ期間ヲ与ヘタルモノト解スヘク然テ相当ノ期間
 内ハ申込ヲナシタル者ニ於テ其ノ申込ノ拘束ヲ受ケヘテ保險会社カ

相当ノ期限内ニ承諾ノ意思ヲ表示セハ契約ノ成立スルモノト認ムル
 ヲ相当トス若シ申込中ニ明カニ承諾期間ヲ定メ置カシカ基ヨリ民
 法五ニ一條ノ規定ニヨリテ此ノ期間内ハ申込ノ取消ヲ為スヲ得サル
 ト同時ニ其ノ期間ノ經過ト共ニ申込カ其ノ效力ヲ失フヘキコトハ云
 フ迄マナシ保險契約成立ノ順序ヲ見ルニ先ツ保險契約者タラント
 スル者ヨリ申込ノ意思表示ヲナシ之ニ対シテ保險者カ承諾ノ意思表
 示ヲナス方法ニ出ツルヲ通常トス然ルニ時トシテハ保險者即チ保
 險会社ノ方ヨリ直ニテ保險契約ノ締結ヲ簡便ニスルコトヲ欲シ会社
 ノ発行ニ係ル或ル用紙ニ特定ノ事項ヲ保險契約者タラントスルモノ
 カ記入シ之ニ署名シテ会社ニ宛テ發送セハ其ノ發送ノ時ヨリ契約
 ノ成立シタルモノト看做スコトナリ現ニ旅客ノ傷害保險ニ付テハ
 此ノ方法ニ出ツルコト少カラス如斯キ場合ニハ保險者カ不特定ナ
 ル多人數ニ対シテ申込ヲナシ之ニ対シテ保險契約者側ヨリ承諾ヲ与
 フルモノト認ムヘキカ取ハ又保險契約者ヨリ申込ヲナスモノニシテ

唯保險会社ニ対シテ承諾ノ意思表示ヲ新ニ通知スルコトヲ求メサルニ止レルモノト解スヘキカ此ノ意ニ付テハ議論分ルレトモ後説ヲ以テ多數説トス

保險契約ハ當事者ノ合意ナレバ故ニ保險契約者ヨリノ申込ニ対シテ保險者カナク承諾ノ申込ハ其ノ内容ニ於テ全然一致スルコトヲ要スルハ言フテ候々不從テ申込有カ一突ノ保險金額スハ保險料ヲ申出タルニ拘ラズ保險者タル会社ニ於テモト異レル保險金額スハ保險料ヲ定メテ承諾ノ意思表示ヲナカバ如キコトヲヨハ契約ノ成立スル理ナシ 如斯場合ハ又ニ保險者カ申込人ノ位置ニ立テ新々ナル申込ヲナスモノト解スヘキ保險契約者ニシテ其ノ変更ヲ甘シテ尚契約ノ成立ヲ希望セシ承諾ヲ年々欲テナレハ其ノ儘ニ拒絶シテ可ナリ 保險契約者ハ其ノ保險申込ニ拘泥セラルヘキモノニテラス 蓋シ先ノ申込ハ相手方カ変更ヲ加ヘテ承諾シタル事實ニヨリ既ニ拒絶セラレタモノト認ムヘキレハナキ 申込者ニ承諾ハ右ニ述ヘタルカ如ク其

内容ノ全然一致スルコトヲ要スレトモ之ヲ以テ保險契約ノ内容タルハ一切ノ事項ヲ網羅スヘキモノトテ遠逝スハカラズ 實際上申込ニ承諾ニ對シテ契約ノ内容タルハ其事項ヲ悉ク挙グルコトヲナサズ普通保險約款ニヨルテ突ハルコトヲ要シ 尙シテ如斯キニトハ電モ之ヲ禁スヘキ理由ナク後此ノ場合ニ於テモ契約ハ完全ニ成立スルモノトス 保險者ハ保險契約ノ申込ニ對シテ承諾ヲ年々フルニ望ムテハ如何ナル方法ニ依ルヲ斷ハス尙クモ其ノ承諾ノ意思ヲ申込者ニ對シテ表示スレハ足レリ 保險証券ヲ交付スルコトハ必要ニテラス 尤モ當事者カ特ニ保險証券ノ作製交付ニヨリテ承諾ノ意思表示ヲナスハキコトヲ定メタルトモハ格別ナクトス 保險業ヲ営ムモノハ保險契約ノ申込ニ對シテ遠逝ヲ與フヘキ義務アリヤ否ニ依リテ異ニ付テハ前法ニモ一條ヲ援用シ保險契約ノ申込ヲナシタルモノモ 例ハハ遠逝業者ニシテ其ノ保險ヲ遠逝保險ニ屬シ而シテ從來其ノ保險会社ニ對シテ遠逝保險ヲ委託シ来レルカ如キ場合ハ保險者タル保險会社ハ右ノ

規定ニヨリ違背ナク許否、通知ヲ求ムルコトヲ要シ若シ之ヲ怠ルル
 キハ申込ヲ兼託シタルモノト看做ナルト論ハルモノナリ 此ノ真
 ニ付テハ多少議論ノ餘地ナリト信ス 此ノ場合ノ外ハモトヨリ保險
 業者トシテ違背ヲナスヘキ義務ヲ負ハス 従テ不違背ヲナサ、ル
 テ申込者ニ對シ損害賠償ノ責ヲ負フコトモナシ
 保險契約ノ成立ハ一般ノ契約ノ本質ニ從ヒ兼託ヲナス當時申込カ
 形式上尚存在スルコト、必要ナルハ勿論ナリトモ此ノ外ニ物取契約
 ノ特質ヨリシテ申込中ニ表示セル事情カ其ノ儘變更セシテ存続ス
 ルコトヲ必要トス 若シ申込中ニ表示セル事情カ兼託ヲナス際既ニ
 變更セルモノハ保險契約ハ成立セサルモノトス 例ハ人生命保險契
 約ノ申込ヲナシタル後兼託ノ時迄ノ間ニ被保險者カ既ニ死亡シ或ハ
 兼託ノ火災保險契約ノ申込ヲナシタル後兼託ノアル迄ノ間ニ被保險
 既ニ火災ニ毀レル場合、如キハ申込中ニ表示セル事情カ變更スルヲ
 以テタトハ兼託ヲナスニ保險契約ハ成立セサルモノトス

保險契約ハ兼託ノ際被保險者カ尚存在シ被保險物カ尚存在スルコ
 トヲ前提トシテ成立スルモノナリ 然レ保險契約ノ當事者ニシテ一
 應兼託ヲナス以上保險ノ效力ハ申込ノ當事ニ廻リ其ノ以後發生セル
 事故ニ付テモ保險者ハ其ノ責ニ任ヌヘキ旨ヲ定ムルニトナリ 如斯
 場合ハ契約ハ有效ナリ又如何トイフニ之ニ付テハ場合ヲ分テテ觀察
 セサルハ可ラス
 ハ 既ニ事故ノ發生セル場合
 當事者相方カ既ニ事故ノ發生セルコトヲ知ラサルトキハ保險契
 約ハ有效ナリ

蓋シ此ノ場合ニハ當事者ノ憂慮セル危険ヲ伴フ事故カ業シテ發
 生セルモノニ付テ當事者ノ何レモカ知ラス 而シテ斯ル場合ノ爲ニ
 コソ保險契約ヲ締結スルノ必要ナレハナリ 反テ當事者ノ一方々
 ル保險者ノミカ既ニ事故ノ發生セルコトヲ知レルトキハ保險契約
 ハ無効ナリ 又保險契約者ノミカ既ニ事故ノ發生セルコトヲ知レ

ルトモ亦同シ 当事者ノ相方カ知レルトキニ無効ナルハ言フ俟テ

又
国ニヨリテハ保險者ノミカ知レル場合ハ保險契約ヲ有效トシ保
險者ニ保險金支払ノ義務ヲ負擔セシムル知アリ 其ノ理由トスル
如ハ如斯キ場合ニ保險金ノ支払ヲ拒ムハ不正當ノ理由トシト謂フ
コアリ 我民法三九七、四三三條ニ於テハ苟クモ契約當事者ノ一
方カ知レルトキハ其ノ契約ヲ無効トスル旨ヲ規定セリ

2. 事故ノ發生セサルハキコトノ既ニ確定セル場合

此ノ場合ニハ當事者相方カ事故ノ最早生ゼタルコトヲ知ラサル
ト當事者ノ一方若クハ相方カ知レルトニ論ナク保險契約ハ效力ヲ
生ゼサルモノト認ムルヲ適當トス 蓋シ此ノ場合ハ保險者ニトリ
テハ到底損害ヲ填補スル地位ニ立テ得ヘカラス 又保險契約者ニ
トリテモ保險金ノ支払ヲ求メ得ヘキ時期ノ到来スルトキナケレハ
ナリ 代理人ニヨリテ保險契約ヲナス場合ハ右ニ述ヘタル當事者

ノ知 不知ハ代理人ニ付テ定ムヘキコト言フ俟テモ 尤モ本人ノ
指圖ニ従ヒテナレタルトキハ本人ハ代理人ノ不知ヲ主張スルヲ得
ズ 保險契約トモ民法ノ規定セル法律行為ノ一般原則ニ従フヘ
キモノナルカ故ニ其ノ要素ノ錯誤アルトキハ無効 詐欺強迫ニヨ
ルトモハ取消シ得ヘキモノト云フヘシ 其ノ他時期ヲ突クタルト
スハ期間ノ満了ニヨリテ當然效力ヲ失ヒ又當事者カ合意ヲ以テ一
旦ナシタル契約ノ効力ヲ失ハシムルコトモ亦之ヲ妨ケズ 其他商
法ニ於テ時ニ定メタル場合ニ該當シ保險契約ノ効力ヲ失フコト少
カラズ 告知義務違反ノ時ニ要素ノ錯誤ヲ理由トシテ保險契約ノ
無効ヲ主張シ得ルモハ議論ノ存スル知ナシ

第三節 告知義務

保險ハ元來將來ノ不確定ノ事故ニ対シテ為サレ、モノナルヲ以テ
 保險契約ノ性質トシテ其ノ事故即チ危険ノ發生ニ付テ或ル範圍マテ
 ハ保險者モ保險契約者モ知ラサルコトカ当然ナリト云ハザルベカラ
 ス。蓋シ斯ル不知ノ事情存スルハコソ一方ハ保險ヲ求メテ其ノ他方
 ハ之ヲ引受ケルナリ。然然出未得ル限リ種々ノ方面ヨリ保險者ヲシ
 テ危険ノ程度ヲ少カラシムルニ非サシハ保險業ノ発達ハ之ヲ期シ難
 シ。茲ニ於テケ保險者カ保險業ヲ確実ニ營メントセハ可成其ノ引受
 ケル危険ノ種差及範圍ニ付テ詳細ナル知識ヲ得ルノ策ヲ講セザルハ
 カラス。而シテ之ニ付テハ保險者ハ固ヨリ統計ヲ基トシテ其ノ引受
 ケル危険ニ付テ大體ノ觀測ヲナスヘントモ各保險ニ付テハ夫々特
 種ノ事情ヲ有スルカ故ニ到極一般ノ統計ノモニ頼リ安スルヲ得ズ
 茲ニ於テケ保險ノ申込ヲナスモノヨリシテ相当ノ核カヲ受ケルコト
 ヲ必要トシ保險ノ種差範圍ニ關スル保險者ノ知識ヲ充分ナラシムル
 振努ナルハ敢テ不当ナラス。之レ従来保險制度ノ行ハル、國ニ於テ

或ハ法律或ハ慣習ニヨリテ保險契約者ヲシテ危険ニ于シ保險者ニト
 リ參考トナルヘキ事實ヲ告知スヘキ義務ヲ負担セシムル所以ニシテ
 茲ニ所謂告知義務ハ斯ル義務ヲ指スナリ。我前法モ亦現ニ明文ヲ以
 テ此ノ義務ヲ認メタリ（三九九条ニ 四二七条）尤モ並未ニ至リ
 保險ニ關スル技術進歩セルヨリシテ立法論トシテハ或ハ告知義務ノ
 不必要ヲ唱フル學者ナキニ非ス。若シ將來保險業者ニシテ確実ナル
 統計ヲ集ムルノ便宜ヲ得且ツ何々ノ危険ニ付テ之ヲ調査スル手段ヲ
 得ハ此ノ義務ハ之ヲ廢スルモ可ナルヘシ

此ノ告知義務ニ付テハニケノ説アリ

一説 保險契約ハ告知ヲ受ケタル範圍内ニ於テ成立スルモノナリ
 ニ説 告知ハ保險者ヲシテ出未得ル支差ノ知識ヲ補ハシメントスル
 ニ止マリ之ニヨリテ契約ノ成立ニ影響スヘキモノニアラス
 我前法ハ此ノ旨ニツキ明カナル定メヲナスコトナシト雖モ法文ノ
 趣旨ヨリ推察スルトモハ寧ロ第二ノ説ヲ採ルモノト認ムニテ相当ト

トス 蓋シ新法三九九条ノニ及ヒ四二九条ニ依レハ保險契約ノ當時
 重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不実ノコトヲ告ケク
 ルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲナスコトヲ得トアヤテ何レモ其ノ
 告ケス」若クハ「告ケタルトキ」ナレバ「一方的義務ヲ示ス」止
 マルト其ノ告ケス又ハ告ケタルトキニ直テニ相手方ニ解除権ヲ与フ
 ルコト及右ノ条文ニ保險者カ其ノ事實ヲ知ラズハ過失ニヨリ之ヲ知
 ラザリシトスハ此ノ限リニ非ラズト規定シテ或ル場合ニハ解除
 権ヲ奪ハル莫ク対照スレハ告知義務ハ保險契約締結ニ際シ法律カ保
 險契約者ニ命セル義務ニ止マリ此ノ義務ノ履行如何ハ契約ノ成立ニ
 影響ヲ及ホスモ、ニ非スト認ムヘケレハナリ 例ハハ火災保險ニ於
 テ保險契約者カ建物ノ構造ニ關シ不実ノコトヲ告ケタリトセンカ此
 ノ場合ニ前ノ説ニヨレハ保險者ハ若シ眞実ノ構造ヲ告知セラレタリ
 トセハ契約ヲ締結セズシテ止ムコトアルヘキヲ以テ告知義務ニ基キ
 テ保險契約ヲ締結シタル以上ハ其ノ告知シタル範圍内ニ於テ危険引

受ケノ約束カ成立スルモノナリト論シ以テ契約ノ無効ヲ主張シ得ハ
 シ 又之第二説ニヨレハ保險契約ノ性質上保險者タルモノハ時トシ
 テ錯誤ニ落ツル事アルハ最初ヨリ予期スルキ事柄ニシテ而モ元来法
 律カ保險契約者ニ對シ告知義務ヲ負擔セシムル所以ハ右ニ述ハタル
 如ク保險者ノ引致ケル危険ノ程度ニ于テ智識ヲ補充セシムルニ過
 スシテ保險者ハ之カ告知セテレケル知ヲ唯一ノ根拠トシテ保
 險契約ヲナスヘキモノニテラス 自ら進ンテ相当ノ調査ヲナスヘキ
 コト論ヲ俟タス 告知義務ノ違反ニ對シテハ尚法ノ保護ヲ抑キ得ル
 ニ止マリ民法ノ原則ニヨリ法律行為ノ要素ニ錯誤アルモノトシテ契
 約ノ無効ヲ主張シ得サルモノト論スルヲ相当トスヘシ 法律ノ保險
 契約者ニ對シテ告知義務ヲ規定スルニ止マレトモ保險契約ノ性質ヨ
 リ論スレハ保險者ニ對シテモ亦告知義務ヲ課スヘキモノナリト論ス
 ル者アリ 即チ保險契約ニ影響ヲ及ホス知ノ保險者側ニ於ケル事實
 ヲ保險契約者ニ對シ告知スヘキ義務アリト論セリ 例ハハ火災保險

ニ付キ保險ノ目的ニ対スル火災ノ危険ニ關シ保險契約者カ保險者ノ
計算セル知ヨリモ一層大キク計算シ居ルカ如キ場合ニハ保險者ハ
須ク自己ノ所信ヲ拒テ爾レ以テ保險契約者ヲシテ保險ヲナスト否
トヲ探取セシムヘキモノナリト論スルナリ。然レ如斯義務ハ我商法
ノ解釈トシテハ之ヲ認ムヘキ何等ノ根拠ナシ

告知義務ハ法律カ保險契約者ニ対シ命セル義務ナルカ之ヲ履行ス
ルニ當リテ口頭ヲ以テナスト書面ヲ以テナストハ義務者ノ隨意ナリ
而シテ此ノ義務ニ違反セル時ノ結果 換言スレハ重要ナル事実ヲ告
テサルトスハ重要ナル事項ニ付キ不実ノコトヲ告テタルトキソ制
裁ハ保險者ヨリ保險契約ノ解除ヲ受クル事之ナリ。尚此ノ義務ハ唯
最初ノ契約ヲ締結スルトキノミナラス其後ノ契約ヲ更新スルトキニ
モ同様ナリ。尤モ契約締結ノ際其ノ事實ノ存シタルコトヲ自ラ知ラ
サル以上契約締結ノ後ニ至リテ其ノ事實ノ存在セルコトヲ知リタル
ハトテ之ヲ告知スルニ及ハス。茲ニ所謂告知義務ハ契約締結ノ際ニ

告知セサルモノニシテ契約締結後危険増加ノ場合ニ之ヲ告知スヘキ
義務ニ付キテハ別ニ論スヘク彼是混同スヘカラス

保險契約者カ告知義務ヲ履行スルニ當リ口頭ヲ以テナスト書面ヲ
以テナスト何レニテモ可ナル事ハ右ニ述ヘタル如クナルカ保險者カ
必ス書面ヲ以テ告知スヘキコトヲ求メ保險契約者カ之ニ同意シタル
トス即チ特約シタルトスハ該特約ハ有效ニシテ保險契約者ハ之ニ拘
束セラルヘキモノナルヤ如何。此ノ點ニ付テハ多少議論ノ存スル所
ナリト雖モ如斯特約ハ無効ナリト斷スルヲ正当ト信ス。保險者ハ保
險契約者ニ対シ不利益ナル特約ヲナスヲ許サレサルモノト斷スルヲ
保險法上ノ原則ト信スレハナリ。依ニ右ノ特約ハ有效ナリトスルモ
苟クモ口頭ニテ告知スレハ保險者ハ既ニ知リタルモノト認メ得ヘキ
カ故一(三九九条ニノ第一項 四二三条第一項但各)保險者ハ解除
权ヲ行フコトヲ許ササルモノト云ハサルヘカラス。保險契約者ノ告
知義務ハ所法ノ規定自体ニ於テ制限セリ即チ重要ナル事項ニ付スハ

キ事、重要ナラサル事實ニ于テ告知セサルモ又不実ノ事實ヲ告知スルモ義務違反トナス尚告知義務ハ故意又ハ重大ナル過失アルニ非ヤレハ違反トナラス 故ニ自己ノ知ラサル事實スハ相当ノ注意ヲ以テシテハ知り得ザリシ事實ハ之ヲ告知セサルモ義務違反トナラス 或ル事柄カ免除ノ引受ニ付キ重要ナリ又否ヤノ意味ハ其ノ事柄ニヨリテ保険者カ保険契約ノ締結ヲ全然拒ミスハ特別ナル条件ニヨルニ非ヤレハ保険契約ノ締結ヲナサ、ル場合ヲ指スモノニシテ而モ之ハ主觀的ニ判断スルモノニ非スシテ客觀的ニ觀察スヘキモノナリ 例ハハ火災保険ニ於テハ、保険ニ付セラル、建物ノ種類、構造、其ノ使用ノ方法、殊ニ其ノ建物内又ハ其ノ附近ニ於テ火氣ヲ盛ニ起ス營業ヲナスメ否ヤハ之ヲ告知スヘキ重要ノ事柄ト認ムルコト一般ノ見解ナリ又生命保険ニ於テハ、被保険者即チ保険ニ付セラル、人ノ健康状態又其ノ健康状態ノ精査ニ精査スルコトニ關スル種々ノ状況、如キヲ告知スヘキハ重要ノ事柄ト看做スナリ 現今ノ實際ニ於テハ、保険契約

ヲナス際、保険者ノ方ヨリシテ種々ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ保険申込者ニ交付シ之ニ答テ記入セシムルコト行ハレ居レリ 然レ此ノ傾向ハ常ニ凡テ重要ナル事項ト云フヘキモノニ非ス 保険者ハ或ハ之ヲ重要事項ト認メタルカ故ニ、償付ヲ拒シタルモノナランモ、我法律ハ如何ノ償付答ニ于テ別段ノ規定ヲナサス 固ニヨリテハ斯ル書面ニ記載セラレタル事項ヲ以テ反証ナキ限り一應重要事項ト看做ス旨ヲ規定セル知アリ 従テ如斯國ニアリテハ其ノ傾向ニ對シ不実ノ答ヲナサハ告知義務違反ト認メラル、ナリ 尚立法論トシテハ、斯ル規定ヲ設クル事ハ往々狡猾ナル保険者ヲシテ微細ノ實ニ溢リ幾多ノ償付ヲ拒シ、保險申込人ヲシテ義務違反ニ係ラシムル機會ヲ多カラシムル虞アルノミナラス、保險者自身ヲシテ自己ノ正ニ採ルヘキ調査ヲカロソカナラシムル弊害アルヲ以テ容易ニ横断シ難シ 保險契約ハ前述ノ如ク諾成契約ニシテ、敢テ保險者ヨリ告知義務先ツ履行セラル、ニ非サレハ成立セスト云フカ如キモノニ非ス 従テ

告知義務を違反シタリトノ理由ヲ以テ保険者ハ直チニ保金ノ支払ヲ拒ミ得ヘキニ非ス 要スルニ告知義務違反ハ保金契約ノ成立ニ影響ナシ唯保険者ニ於テ商法規定ニ基キ保金契約ヲ解除シ得ルニ止マル 従テ契約解除ノ意思表示ヲ成シ茲ニ初メテ保金支払ノ義務ヲ免レ得ルナリ 尚如斯告知義務ハ保金契約者ヨリ先ツ履行セラル、ニ非サレハ保金契約ノ成立セスト云フカ如キモノニ非サル莫ヨリシテ告知義務違反ノ立証責任ハ当然保険者ニアルモノト云ハサルヘカラス 即チ保険者ノ行為ニシテ保険申込人カ重要ナル事実ヲ知り乍ラ又ハ容易ニ知り得ヘキニ拘ラス注意ヲ怠ルル結果覚知セシテ告知サリシコト又ハ不実ノ事実ヲ告ケタリトノコトヲ立証スヘキモノトス

解除権ヲ行使スルト否トハ固ヨリ保険者ノ権利ニ屬シ之ヲ行使セサルヘカテサル義務ナキヲ以テタトヘ保金契約者告知義務違反ノ事實アルモ保険者ハ必スシモ解除権ヲ行フモノト限ラス 解除権ヲ行

使セシテ契約ヲ存続セシムルコトモ實際上少カラズ 而シテ此ノ解除権ヲ行使スルニ付テハ法律上一定ノ期間アリ 即チ保険者カ告知義務違反ノコトヲ知りタル時ヨリ一ヶ月内ニ之ヲ行使スヘク若シ此ノ期間ヲ徒過シタルトキハ解除権ハ消滅シテ最早保金契約ノ効力ハ勤カスヲ得サルナリ 尚解除権ハ保金契約締結ノ時ヨリ五年ヲ経過セルトキハ絶対ニ行使スルコトヲ許サレズ 解除権行使ノ期間ヲ右ノ如ク制限セルハ專ラ被保険者ヲ保護スル目的ニ出テタルモノニシテ此ノ解除権ニ于スル法律ノ規定ハ強行的規定ト解スヘク當事者ノ特約ヲ以テ隨意ニ変更スルコトヲ得サルモノトス 尚解除ノ意思表示ヲナスニ際シテ相手方カ未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ対シテナスヘキコトハ言フ俟タズ 又相手方タル保金契約者カ既に死亡セルトキハ其ノ相続人ニ対シテ意思表示ヲナスヘキモノトス 保険者カ一旦告知義務違反ノ理由トシテ契約解除ノ意思表示ヲナシタル后ニ至リテハ更ニ契約ヲ解除セサリシ状態ニ復スルコトヲ定ム

ルモ救カナシ 解除ノ意思表示ヲナスニ當ツテ保險者ハ解除ノ原因
 即チ告知義務違反ノ事實ヲ相手方ニ告ケサルヘカラサルカ如何?
 苟クモ或ル原因ヲ述ヘテ解除ノ意思表示ヲナセハ足ル 其後訴訟
 ニ至リテ前ノ原因ト異ナル原因事實ヲ主張スルモ尚解除ノ意思表示
 ハ有效ナリ 例ヘハ茲ニ既住ノ疾病ヲ告ケサリシコトヲ理由トシテ
 解除ノ意思表示ヲナシ其後訴訟ニ至リ他ノ保險会社ト契約ヲナシテ
 ル事實ヲ告ケサリシコトヲ理由トスルモ差支ナシ 保險契約者カ重
 要ナル事實ヲ告ケサルモ或ハ不実ノ事實ヲ告ケルモ 保險者ニシテ其
 事實ヲ知りズハ不実ナルコトヲ知レルモ若クハ相当ノ注意ヲ用ヒ十
 ハ容易ニ知り得ヘカリシトキハ解除権ハ保險者ニ附并セラレズ從テ
 如斯場合ハ保險者ハ解除権ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス 保險
 者カ既ニ事實ヲ知レルトキ又ハ知り得ヘキトキニ法律力之ニ對シ解
 除権ヲ廢止スル理由ハ元來保險申込人ニ對シ重要事實ヲ告知スヘキ
 コトヲ法律カ命セルハ保險者ノ知識ノ足ラサル所ヲ補フ目的ニ出テ

タルモノナレハ既ニ保險者ニシテ自ら知レル以上又ハ容易ニ知り得
 ヘキ以上最早他ヨリ告知ヲ受ケルコト必要ナケレハナリトノ理由ニ
 出テタルモノトス 保險者カ如何ナル方法ニテ又如何ナル機会ニテ
 知レリメハ之ヲ向フヲ要セス 苟クモ知レル以上ハ絶対ニ解除権ナ
 キモノトス 例ヘハ生命保險ニ於テ保險契約者カ被保險者ノ健康狀
 態ニ付キ眞實ノ事實ヲ告ケス或ハ不実ヲ告ケテリトスルモ保險者ニシ
 テ醫師ヲ用ヒ身体検査ヲナシ其ノ結果病氣ニ係リシ事又ハ現ニ係リ
 ツ、アルコトノ判明シ又ハ判明シ得ヘキトキハ保險者自ラ知り又ハ
 知り得ヘキモノト解シテ解除権ハ存在セサルモノト解スハシ
 保險者ノ募集員又ハ代理店主ノ如キモノニ於テ事實ヲ知レルトキ
 又ハ知り得ヘキトキハ直ニ保險者自身知りタルモノ又ハ知り得ヘカ
 リシモノトシテ論スルヲ得ヘキカ 之ニ付テハ或論者ハ募集員又ハ
 代理店主ノ如キモノハ又保險申込人ノ告知ヲ受ケテ之ヲ保險者ニ傳
 達スルモノニ過サレハ之等ノ人ヨリ保險者ニ傳達セラレタルトキニ

初メテ保險者ハ知りタルモノト云フヘクダトハ某某人等カ知りタリトスルモ之ヲ保險者ニ知ラサル以上ハ保險者ニ於テ知りタルモノト云フヲ得スト論セリ 然ル幕集員又ハ代理店主等ニシテ告知ヲ受クル代理権限ニアル場合ハ勿論タトヘアラサル場合ニ於テモ保險会社ノ為ニ意カテ傳達スルモノト看做スハキヲ以テ其者ニ告ケタルトキニ直ニ会社ニ告ケタルモノト認ムルヲ相当トス 従テ其後保險会社ノ取締役ニ傳達セラレサルモ会社ハ契約ヲ解除シ得サルモノトス 保險契約者カ悪意又ハ重大ナル過失ニテ重要ナル事實ヲ告ケサル場合ハ不実ノ事ヲ告ケタルトキニテモ保險者ク絶對ニ解除権ヲ行使セストノ特約カ有效ナルキ無効ナルキハ多少議論ノ存スル所ナレトモ元來之ヲ行使スルト否トハ保險者ノ自由ナレハ予メ解除権ヲ行使セサルコトヲ定メタルハトテ之ヲ以テ公序良俗ニ反スルモノト云フヲ得ス 従テ如斯キ特約ハ有効ト認メテ可ナリ 又之保險契約者ニ悪意又ハ重大過失ナクモ尚クモ置學ナシ事實ヲ告ケス又ハ重要ナル

事項ニ付キ不実ノ事ヲ告ケタルトキニハ常ニ保險者ニ契約解除ノ権利アリトナス特約ハ無効ト解セサルヘカラス 蓋シ保險者ハ保險契約者ニ對シ不利益ナル契約ヲナスコトハ許サレモノト認ムルヲ正当トスレハナリ

以上述ルカ如ク保險契約者タル被保險者ニ告知義務違反ノ事實アルトキハ保險者ハ契約ヲ解除スルヲ得ヘク 而シテ其ノ結果保險金支払ノ責ナク又既ニ支払ヒタルトキハ其ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキカ 保險契約者ニ於テ危険ノ發生カ其ノ告ケタル事實又ハ告ケサリシ事實ニ基カサルコトヲ証明シタルトキハ保險者ハ契約ヲ解除セルニ拘ラス尚保險金ヲ支払フヘキ責ヲ免レス又既ニ保險金ヲ支払ヒタル場合ハ其ノ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス 右述ハタルカ如ク告知義務違反ノ為メ契約ヲ解除シタル場合ニ相手方カ尚保險金ノ支払ヲ求ムトセハ其人ニ於テ事故ノ發生ト告知義務違反トノ間ニ因果關係ナキコトヲ立証セサルヘカラス 而シテ此ノ立証ヲ+

又ニ当リテハ正確ニ因果ノ關係ナキコトヲ証明スルコトヲ要シ殆ン
ト斯ル干係ナカルヘシト云フカ如キ立証ニテハ足ラス。苟モ告ケス
又ハ告ケタルコトカ危険ノ發生ニ多少ノ干係ヲ有シ得ルコトノ認
テル、場合ニハ保險金ノ支払ヲ求メ得サルナリ

以上ハ保險契約締結ノ際ニ於ケル告知義務並ニ其ノ違反ノ場合ニ
於ケル效果ヲ説明シタルモノナリ

以下保險契約締結後ニ危険ノ變更増加ニ于スル告知義務ニ付テ説
明スヘシ

保險者カ保險契約ヲ締結シ一ズノ事故ノ生スルトキニ損害ヲ填補
シスハ一定ノ金額ヲ支払フコトヲ約束スルハ其ノ契約締結ノ際ニ於
テ保險ノ目的カ事故ノ發生ニ対シ如何ナル干係程度ニアルカヲ考ヘ
テナスモノニシテ契約締結ノ際ニ於ケル右ノ干係程度ヲ標準トスル
モノナリ。之ヲ比知ニ危険ト称ス。従テ若シ其後危険カ著シク變更
又ハ増加シタルニ拘ハラヌ尚保險契約ニ基キテ責任ヲ負担スヘキモ

トトナスハ保險者ノ責ヲ加重スルモノト云ハサルハカラス。尤モ保
險ナルモノハ常ニ多少ノ危険ノ變更増加ヲ免レサルカ故ニ多少ノ變
更増加アル場合ニモ尚保險者ヲシテ責ヲ免レシムル事トセハ保險ヲ
認メタル趣旨ニ反スヘシ。故ニ著シク危険カ變更又ハ増加シタル場
合ニシテ保險者ノ責任ニ影響ヲ及ボスモノトス。危険ノ増加トハ本
述ノ程度ノ強クナルコトヲ意味シ危険ノ變更トハ本述ノ干係ノ著シ
コトヲ指ス。危険ノ變更ハ同時ニ危険ノ増加タルコトナリ。又然ラ
ザルニ付テアリ。果シテ如何ナル事實アルトキニ危険ノ變更又ハ増加
ト云ヒ得ヘキカハ本場合ニ付キテ判断スルニ付ナシ。例ハ大火災保
險ニ於テ従来瓦斯ヲ引附セザリシ家屋ニ初メテ瓦斯ヲ引クハ危険ノ
増加ニシテ従来引ク未ダ引クニ至ル、位置ヲ變更スルカ如キハ危険ノ變
更ト云ヒ得ヘシ。又生命保險ニ於テ被保險者ニ疾病ニカ、ルハ危険
ノ増加ニシテ職業ヲ變更スルカ如キハ危険ノ變更ト云ヒ得ヘシ。又
火災ニ至リテ、變更増加カ著シカヲサレトキハ保險者ノ責任ニ影響

予及サ、ル事ハ前述ノ如シ 或内法ハ保險契約ヲナシヨレ後者ニ保
 險者ヨシテ責任ヲ負擔セシムヘキ期間内ハ保險契約者又ハ被保險者
 ニ於テ著シタ危險ノ喪失増加ヲナスコトヲ許サズ之ヲナシタルトス
 ハ保險契約ハ其故カヲ失ヒ当然保險金支払ノ責任ヲ保險者ハ免レル
 事ヲ得 而シテ右ノ危險ノ喪失又ハ増加カ保險契約者又ハ被保險者
 ノ過失ニヨラス其責ニ歸スヘキ事由ニテサルトスハ保險者ハ契約
 ヲ解除シテ保險金支払ノ責ヲ免レ得ルナリ 而シテ保險契約者又ハ
 被保險者ニ如斯危險ノ増加ヲ保險者ニ告知スヘキ其ノ義務ニ違フト
 スハ保險者ハ危險ノ喪失又ハ増加ノトキヨリ保險契約カ故カヲ失ヒ
 タルモノト爲做スコトヲ得(四一〇、四一一、四三三) 故ニ保險
 契約締結後ニ於ケル告知義務ハ保險契約者又ハ被保險者ノ過失其ノ
 他ノ責ニ歸スヘキ事由ニヨラスシテ危險ノ喪失又ハ増加シタルトス
 及ヒ此ノ事實ヲ知リタルトスニ生スルモノニシテ其ノ義務ハ遲滞ナ
 カ履行スヘキモノトス 保險者ニシテ告知ヲ受ケテ作ラ契約ノ解除ヲ

ナサス若クハ保險者自ラ危險ノ喪失増加ヲ知レルニ拘ラス遲滞ナク
 契約ノ解除ヲナサハルトスハ保險者ハ解除権ヲ放棄シタルモノト爲
 做サル(四一一、三)

第四節 保險料

保險契約ハ有償契約ニシテ保險契約者ハ保險料ヲ支払フヘキ義務
 ヲ負擔スルモノトス 而シテ保險料ノ支払ハ保險契約ノ成立ニ影響
 ナク保險契約ハ当事者ノ合意ノミニヨリ直ニ成立スルモノナルコト
 ハ前述ノ如シ 其然實際上当事者カ保險料ノ支払ハルハトス若クハ
 繼續シテ払込ヲナス場合ニ第一回ノ保險料ノ支払ハレタルトスニ保
 險契約カ初メテ成立スルモノト特約スルコトアリ 如斯場合ニハ其
 保險料ノ払込ノナサレ、直ニ保險契約ハ成立セサルヘシト虽モ之レ

特約ノ效果ニスルモシテ保險契約ノ性質上ヨリ未ルモノニアラス
 保險料支払ノ場所ハ保險者ノ營業所ナルカ或ハ保險契約者ノ營業所
 又ハ住所ナルカ此ノ實ニ付テハ商法ハ別段ニ規定セサルヲ以テ所行
 為ノ規則ノ規定ニモハテヨリ保險者ハ保險業ニ付テハ保險者カ債
 権者ナリノ營業所ニ於テ支払フヘキモノト解セサルヘカラス 尤
 モ明示スルハ然示ノ行為ニヨリテ保險者ノ方ヨリ集金人ヲ派出シ保險
 契約者ノ營業所又ハ住所ニ付テハ保險料ノ支払ヲ受クルヲ妨ケス
 然ルニ我國ニ於テハ保險会社ノ約款中ニ保險料ハ会社ノ本店支店又
 ハ代理店ヘ払込ムヘキモノト明カニ定メオキナカラ同時ニ集金人ヲ
 派出シテ保險料ヲ徴収シ居ル慣習アリテ保險料支払ノ場所カ何レ
 ナルカ人ヲシテマトハシムル寸少カラズ 独乙ニ於テハ保險法ニ於
 テ保險料支払ノ場所ハ保險契約者ノ住所ナリト規定セルカ故ニ如斯
 キ不安ナシ 保險料支払ノ義務ニ付テハ當事者カ特約ヲ以テ自由ニ
 之ヲ定メ得ハシト雖モ何等特約ノ有セサル以上ハ保險者ノ責任ノ所

始ムル時期ヲ以テ保險料モ亦支払時期ノ到来セルモノト認ムルヲ相
 當トス 蓋シ保險契約ヲ締結スルモ保險者カ未タ保險契約ニ付テ責
 任ヲ負擔セサル向ハ保險契約者モ亦自己ノ負擔セル義務ヲ履行セス
 シテ可ナルコトハ相互契約ノ性質ニ照シ明カナレハナリ 保險料ヲ
 継続シテ支払フヘキ保險ニ付テハ保險料ノ支払ニツキ猶予期間ト称
 シ幾何ノ期間(例ヘハ三十日トカ六十日トカ)予メ支払ノ延期ヲ許
 容スル慣習カ諸國ニ行ハレ又我國ニモ行ハレ居レリ 從テ保險契約
 者ハ期日ニ保險料ノ支払ヲナサ、ルモ猶予期間ノ経過セサル向ニ保
 險料ヲ支払ヘハ保險契約ヲ解除セラル、幸ナク事故發生ノ時ニ保險
 金ノ支払ヲ受ケ得ルナリ 然猶予期間内ニ保險事故カ發生シ其時
 追ニ保險料ノ支払ナカリシトスハ保險者ハ保險金ヲ支払フヘキモノ
 ナルモ否ヤニ付テ議論アリ 保險契約カ解除サレサル限り保險者ハ
 保險金ノ支払ヲ免カス、ヲ得サルモノナルカ故ニ予メ當事者間ニ於
 テ若シ保險料ノ支払ナキトキハ保險金ノ支払ヲ爲サ、ル旨ノ特約ヲ

ナシ置ケハ格別然テサル限リハ保険者ハ保険金ノ内ヨリ未払保険料ヲ控除シ残額ヲ支払フ可キモノトスハサルヘカラス 保険者カ猶予期間ヲ定ムルニ当リ猶予期間内ニ例ヘハ被保険者ノ健康カ變更セザル限リ保険料ノ支払ハ効力アルモ然ラサル場合ニハ効力ナシト云フカ如キ特約ヲナシ得ルモ如何トスフニ如斯特約ハ實際猶予期間ヲ与フル趣旨ニ適合セサルヲ以テ無効ト認スルヲ通説トス 保険料ハ現金ヲ以テ支払フ事カ普通ナレトモ必スシモ現金ニ非サレハ保険料支払ノ効力ナシト云フヲ得ス 代物弁済ニテモ亦相殺ニテモ苟モ民法カ認ムル如ノ債務弁済ノ方法ハ保険料ノ支払ニ付テモ適用セラルナリ 又代理店ヲ通シテ保険料ノ払込ヲナス場合ニ代理店主カ保険料支払義務者ヨリ現実ニ受領セルトスハ其者ノ為ニ自ラ立替タルトニ論テ保険者ニ対シテ保険料ノ支払アリタル旨ヲ通知シ保険主ト代理店主ノ計算干係ニ於テ保険者ニ対スル入金ト定メラレタル以上ハ其後實際ニ於テ代理店主カ未タ保険料ノ支払ヲ受ケザリシ事實現

ハル、モ之ハ代理店主ト保険料支払義務者トノ間ノ干係ニ止マリ保険者ハ保険料ノ支払ヲ受ケタルモノトシテ取扱ハルヘモモノトス 保険契約者カ保険料ノ支払ヲ怠レルトモ若シ猶予期間ノ定メアルトモハ其ノ其ノ期間ヲ徒過セルトモ保険契約ハ当然効力ヲ失フヘキモノナルカ或ハ保険者カ保険契約ヲ解除シ得ルニ止マルカ 我前法ニハ此ノ莫ニ付テ別段ノ明文ナシ 人ニ依リテハ保険契約ハ当然効力ヲ失フモノト論シ其ノ理由トシテ保険料ハ保険契約ノ要素ナルカ故ニ期日ニ保険料ヲ支払ハサルハ保険契約者ニ於テ保険ノ利益ヲ享受セントスル意思ヲ抱棄シタルモノト解スヘク徒テ保険者ハ危険ノ負担ヲ免カル、モノナリト説明スレトモ保険料支払ヲ怠レル場合ニ之ヲ一般ノ契約上ノ義務不履行ト区別スヘキ理由ナキカ故ニ保険料ノ支払ハ保険者ニ契約ヲ解除スルノ権利其他損害賠償ヲ求ムル権利ヲ与フルニ止マルモノト解スヘキナリ 保険料ヲ支払フ義務ト危険ノ負担スル義務トカ相對立シ之レナケレハ保険契約ノ成立ヲ認め難ク

コトハ之ヲマテモナケレトモ契約ノ成立ト一旦成立シタル契約ノ效カトハ大イニ異レリ 如斯保險料ノ支払ハ直ニ保險契約ノ效カヲ失ハシムルモノニ非スシテ保險者ヨリ契約解除ノ意思表示ヲナス迄ハ契約ハ存続スヘク而シテ解除ノ方法ハ民法ノ一般規定ニヨルヘキモノトス 但シ實際上ハ保險者ニ於テ予メ約款中ニ保險料ノ不払ヲ以テ保險契約失效ノ原因ト定メ居レル事多キカ故ニ如斯場合ニハ特ニ解除权ヲ行使スルノ必要ナシ 但シ如斯約款ヲ設フル事ハ多少酷ニスタル嫌アルヲ以テ之ヲ緩和スル為往々保險者ニアリテハ一旦保險料ノ不払ニヨリテ契約ヲ放カテ失フモ未タ事故ノ發生セサル間ナレハ保險者カ保險料及未清利息ノ払込アル以上契約ノ効力回復ヲ承諾スヘキ事ヲ定メ居レリ 一旦期間經過後保險料ヲ受取リテ已ニ消滅セル契約ノ効力ヲ回復スルト云フ事ハ其実新ナル契約ヲ締結スル事ニ該当シ唯新ナル申込ヲ為シ之ニ承諾ヲ與フルト云フ手續ヲ省略スルニ過キス 依テ理論上ハ此場合ニ告知義務モ之ヲ履行ズヘキモノ

ト云ハサルヘカラス 又保險料ヲ受取ルモノモ單ニ保險料受領ノ权限ヲ有スルニ止マラス保險契約ヲ締結シ得ル权限ヲ具備スルコトヲ要スルモノトス 保險契約ハ告知義務違反ノ事由アルカ為解除サレタルトモ其ノ解除ハ將來ニ向ツテノ効力ヲ生スル加之既ニ払込タル保險料ハ基ヨリ保險者ノ所有ニ歸シ之ヲ返還スルニ及ハヌ加之未タ保險料ノ支払ハレサル部分アル時ハ尚之ヲモ徴收スル事ヲ妨ケス(三九九、四一一) 但シ保險者ノ責任カ初マル故ニ於テ保險契約者カ保險契約ヲ解除シタル時(四〇七、四三三) 若クハ保險契約者ハ被保險者ノ行為ニヨラスシテ損害保險ノ目的ニ付テ保險者ノ責任歸スヘキ危険カ生セサルニ至ル時(四〇八) 保險者ハ保險料ヲ返還セサルヘカラス 尤モ之等ノ場合ニ法律ハ保險者ニ對シ保險料ノ半額ニ相当スル金額ヲ請求シ得ル权利ヲ與ヘタリ(四〇九) 蓋シ保險者カ一旦保險契約ヲナス以上ハ種々ノ費用ヲ必要トスヘキカ故

ニ之ヲ補償ヲ與フルニ非サレハ保險業ヲ營ムモノニ對シ苛酷ナリト
思料スルニ出テタルモノトス。或ハ如斯場合ニ當事者カ特約ヲナシ
テ保險料ハ全然之ヲ返還セスト定ムル事アル共如斯特約ハ無效ト解
スヘキナリ。

保險契約締結ノ際ニ保險契約者カ重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ不實
ノ事實ヲ告ケルモ惡意ヌハ重大ナル過失ナキカ為保險者ニ解除權ヲ
行使スル事ヲ得サル場合ニ因ニアリテハ特約シテ保險者ニ保險料増
加ノ請求ヲ為ス事ヲ許セ共我商法ニハ如斯規定ナシ我商法ニハ保險
料ノ減額ヲ認ムル場合ノ規定アルトモ保險料ノ増加ヲ認メタル規定
ナシ。唯當事者カ特約ヲ以テ危險増加ノ場合ニ保險料ノ増加ヲ約束
シ得ルニスル。

各論

第一章 損害保險

第一節 總則

損害保險ハ不確定ニシテ且テ有害ナル或事故ノ發生スル場合ニ其
事故ニ因ル財産上ノ損害ヲ填補スル契約ナリ。而シテ損害ノ填補ハ
金銭ヲ以テナス事カ普通ナルカ故ニ事故發生ノ時ニ保險者ノナス填
補モ亦金銭ヲ以テナス之ヲ保險金額ト稱ス。其然保險金額ナルモノ
ハ保險者カ負担スヘキ最大限度ヲ示スニ止マリテ保險者ハ必スシモ
常ニ之大ケノ金額ヲ填補スルモノト限ラヌ。實際事故カ發生セル時
其生セル損害ノ額ニシテ保險金額以下ナル時ハ保險者ハ實際ノ損害
額大ケテ填補スヘク保險金額ヲ支払フニ及ハス如斯保險金額ハ保險

若カ引致アル危険ニ付テ填補ス可限度ヲ示スモノナルカ之ト同時ニ
 他ノ一方ニ於テ保険契約者ノ支払フヘキ保険料ハ之ト対照シテ決セ
 アルヘキモノナレハ保険金額ヲ定ムルコトハ保険契約ヲナスニ当ツ
 テ定ムヘキ一ツノ重要ナル事項ナリ 尚保險契約ヲ締結スルニ当リ
 保險價額ナルモノヲ定ムル事アリ 保險價額トハ保險セラルヘキ利
 益ヲ金銭ニ見積リタル額ヲ云フナリ 元來損害保險ニハ被保險利益
 ノ存在ヲ必要トシ保險セラルヘキ利益ナケレハ保險契約ハ有効ニ成
 立セサルモノトス 蓋シ保險セラルヘキ利益ヲ有セサルモノヲシテ
 保險契約ヲナス事ヲ許スニ於テハ保險ヲ射倖ニ利用スル事トナリ或
 ハ保險金ヲ得ンカ爲ニ殊更ニ事故ノ發生ヲ促カシ公益ヲ害スル結果
 ヲ生スヘケレハナリ 故ニ保來何レノ國ニ於テモ損害保險契約ノ成
 立ニハ被保險利益ノ存在ヲ必要トセル事ハ一致セル如ニシテ我商法
 モ亦此見解ヲ採ル事ハ所法ニハ五条ニ金銭ニ見積ル事ヲ得ヘキ利益
 ニ限リ保險契約ノ目的ト爲ス事ヲ得ト規定セルニ徴シ明カナリト云

ハサルヘカラス 蓋シ保險契約ノ目的トハ被保險利益ノ意味ニシテ
 此条々ハ被保險利益ノ存在ヲ前提トスルモノナル事ヲ推知シ得ヘキ
 レハナリ 然ラハ茲ニ所謂利益トハ果シテ如何ナルモノヲ意味スル
 メト云フニ人カ或事實ノ爲ニ財産上ノ損害ヲ被ルヘキ關係ヲ指スナ
 リ 基ヨリ其關係ハ或人ニ対スル事モアレハ或物ニ対スル事モアル
 ヘシト虽モ或人又ハ或物ニ付テ或事實ノ發生セル時ニ利益ヲ得若ク
 ハ損害ヲ被ル關係ニ立タハ其關係ヲ此如ニ利益ト称スルナリ 例ハ
 工場ノ所有者カ所所有者トシテノ利益即チ其工場ヲ讓渡シテ代金ヲ
 納メ若クハ之ヲ他人ニ貸與シテ賃料ヲ納ムル所ノ利益ヲ有スルモノ
 ニシテ若シ其工場ニシテ火災ニヨリ滅失センカ其利益ヲ失ハサルハ
 カラス 又工場ノ貸借人ハ貸借者トシテノ利益即チ其工場ヲ使用ス
 ル利益ヲ有スルモノニシテ若シ其工場ニシテ火災ニヨリ滅失センカ
 其ニ工場ヲ求メ得ル迄ハ此ノ利益ヲ失ハサルヘカラス 如斯利益ヲ
 ルカ故ニ所有權、賃借者ハ其工場ニ付テ火災保險契約ヲ締結シ得ル

ナリ。尤も此利益ヲ鮮スルニ當リ法律上ノ關係殊ニ物權債權法上ノ
 關係ニ限ルモノトスハ狹キニ失セリ。經濟上ノ關係ニテモ或ハ又
 單純ナル事實上ノ關係ニテモ尚保險セラルヘキ利益トナシ得ル事少
 カラサルヘシ。又現實明確ナル利益ニ非ストモ將來ノ不確定ナル利
 益ニテモ保險期間内ニ之カ發生スヘキ確實ノ見込アル場合ニハ尚之
 ヲ被保險利益トナスヲ妨ケス。被保險利益ハ法律上スハ經濟上或ハ
 事實上ノ或關係ヲ指スモノニ外ナラザレハ同一目的物ニ付テ同一
 人又ハ數人カ種々ノ相独立セル關係ヲ有スル場合ニハ同一物ニ關シ
 テ數回ノ保險契約ヲ締結シ得ヘキ事ハ當然ナリト云ハサルヘカラス
 如斯保險セラルヘキ利益ハ種々アルヲ以テ各場合ニ於テ果シテ如何
 ナル利益ヲ保險ニ付スルカハ之ヲ當事者間ニ於テ約束スルノ必要ア
 リ。尤モ其約束ハ口頭ヲ以テスルモ書面ヲ以テスルモ亦明示的ニ十
 スモ默示的ニ十スモ妨ケス。多クノ場合ニハ保險者ヨリシテ保險契
 約者ニ對シ保險ノ目的ニ付テ従未有セル如ノ關係ヲ質問スヘキカ故

ニ之ニ因リテ如何ナル利益ヲ被保險利益トナシタルカハ推知シ得テ
 ルヘキナリ。若シ被保險利益ニ付テ何等約束ナカリシ場合換言スレ
 ハ被保險利益ヲ確定セサル場合若クハ當事者カ互ニ相異レル利益ヲ
 被保險利益トナシタルモノト考ヘタル場合ニハ法律行為ノ要素ニ錯
 謬アルモノトシテ保險契約ハ無効ニ帰セサルヘカラス。保險セラル
 ヘキ利益ハ前述セルカ如ク種々雜多ナルカ如何ナル利益ニセヨ夫レ
 ヲ法ノ認許セル如クモノナラザレハ被保險利益トナス事ヲ得ズ換言
 スレハ不法ナル利益ハ之ヲ保險ニ付スルヲ得ズ。例ハ戰爭開始中敵
 國人ト売買其他ノ取引ヲナシ其取引關係ニ付テ保險ヲナスカ如ク又
 故意ニ他人ニ損害ヲ加フルノ不法行為或ハ犯罪行為ノ責任ニ付テテ
 保險契約ヲナスカ如クハ不法ノ利益ヲ以テ被保險利益トナスモノト
 云フヘケ如斯利益ハ保險ニ附セラルヘキモノニ非サルナリ
 被保險利益ハ保險契約ノ成立ニ必要ナルモノナルカ故ニ如何ナル
 利益ヲ以テ被保險利益トナスカハ契約ヲナスニ際シ當事者間ニ於テ

之ヲ約条スヘキ事ハ右ニ述ヘタル如ナルカ其被保險利益ノ價格即チ
 保險價格ヲ決定スル事ハ必スシモ必要ナラス 但シ實際ニ於テハ該
 約締結ノ際ニ之ヲ決定スル事カ普通ナリ 而シテ保險價格ヲ決定ス
 ルニ當リテ專ラ客觀的標準ニ因ルヘキカ又ハ主觀的標準ニ因ルヲ得
 ヘキカ固ニヨリテハ主觀的標準ニ因ル事ヲ妨ケスト為セ共或商法ノ
 鮮叙トシテハ客觀的標準ニ因ルヘキモノト認ムルヲ相当トス 客觀
 的標準ニ因ルトハ被保險利益ノ普通一般的ニ觀察シテ定ムル事ヲ意
 味シ例ハ或モノニ對スル所有權ヲ以テ被保險利益トナス場合ニ其物
 ノ売買價格即チ物ノ市場ニ於テ有スル所ノ價格ヲ標準トスル事ナリ
 反之主觀的標準ニヨルトハ特定ノ人ヨリ觀察シテ其利益ノ價格ヲ定
 ムル事ヲ意味シ或ノ例ニヨレハ保險契約者カ其目的物件ニ對シ任意
 ニ評價スル事ナリ

我而茲ノ解説トシテハ客觀的標準ニ因ル事ヲ正当トス 其理由ハ
 元來損害保險ハ客觀的損害ヲ填補スル事ヲ以テ目的トスルモノナレ

ハ特別ノ規定ナキ限り主觀的標準ニヨリテ被保險利益ノ價格ヲ定ム
 ルトモ絶極無用ノ事ニ終ルヘケンハナリ 尤モ人ニヨリテハ損害保
 險ハ被保險者ニ生シタル實際ノ損害ヲ填補スル事ヲ以テ目的トスル
 モノナルカ故ニ實際生セル損害ハ保險者ニ於テ之ヲ填補スヘキ責任
 ナリ 而シテ損害ハ普通ハ客觀的標準ニヨルカ故ニ市價ヲ價ヘハ之
 ニヨリテ被保險者ハ充分ニ損失ヲ填補セザレタルモノト認メテ可ナ
 リトモ若シ尚其他ニ特別ノ理由ニヨリテ損害アリタル事ノ証明ヲ
 爲シ得ハ之ニヨルヘキモノナルカ故ニ被保險利益ノ價格ヲ定ムルニ
 當リテモ被保險者ノ一身ニ存スル特別ノ理由ヲ參照シテ決スルハ最
 テ不當ニ非スト論セリ 既ニ客觀的標準ニヨリテ保險價格ヲ定ムヘ
 キモノトナス以上ハ當事者カ保險契約ノ際別ニ決定シオカストモ後
 日保險事故ノ發生シタルトモ其知ニ於ケル其時ノ一般價格ニヨリテ
 價格ヲ定メテ可ナリ 但シ予メ決定シオク時ハ保險者ニ於テ其價格
 ノ著シク適當ナル事ヲ証明セザル限り填補額ノ減少ヲ請求スル事ヲ

得ムシテ之ヲ標準トシテ損害ノ填補ヲナスヘキガ故ニ被保險者ニト
 リテ便利ナリト云ハサルヘカラス(前三九四) 被保險利益ノ價格
 ヲ定ムルニ當リテハハトハ其利益カ將來ノ不確定ナル利益ニテモ保
 險契約者カ不確カナル希望ノ本ニ其利益ニ對シ評價スル主觀的標準
 ニヨルヘキモノニ非スシテ寧ロ將來發生セル其利益カ保險契約者ニ
 對シテ幾何ノ價值アルカヲ客觀的標準ニヨリテ定ム可キモノトス
 當リ者カ一旦被保險利益ノ價格即チ保險價格ヲ協定スルモ其保險者
 ニ於テ其價格ノ著シク過當ナルヲ証明セハ右ノ協定額ヲ標準トシ
 テ損害ノ填補ヲナスニ及ハサルヲ以テ若シ保險價格ニシテ保險期
 中著シク減少シタル片ハ保險契約者ヨリ保險者ニ對シテ保險金額及
 保險料ノ減額ヲ請求シ得ルモノトナスヲ相當トス 然ラサレハ保險
 契約者ハ後日保險ノ故發生ノ際ニ比較的少ナキ填補金ヲ受クルニス
 ナスシテ而モ平素ハ割高ノ保險料ヲ支払フノ不利益アレハナリ

(保險第二回金)

保險價格ヲ超エテ保險金額ノ定メラル、場合ヲ指シテ超過保險ト
 稱ス 此超過保險ニ付テハ從來ノ立法例ハ頗ル嚴格ニシテ即保險金
 額カ保險價格ヲ超エル場合ニハ保險契約ヲ全然無効トスル主義ヲ採
 リタリ 之レ畢竟スルニ超過保險ヲ認容スルトキハ保險契約者ハ事
 故ノ發生ヲ希望シ其結果公益ニ害アル加之事故發生ノ為被保險利益
 以上ノ利得ヲナシ保險ヲシテ射倖ニ落シムル弊害アリトノ考ニ出テ
 タルモノトス 基ヨリ保險契約ハ被保險利益ヲ保護スル目的ヲ以テ
 ナサル、モノニシテ事故發生ノ為メ被保險利益以上ノ利益ヲ保險契
 約者ヨシテ納メシムヘキ理由ナシト雖モ超過保險ハ常ニ必スシモ保
 險契約者ノ惡意ノミニヨリテ生スルモノニ非ス 保險契約締結後保
 險價格ノ低落ニヨリテ超過ノ結果ヲ生スルコトモアルヘケレハ保險
 金額カ保險價格ニ超過シタリトテ保險契約ヲ全然無効トスルニハ及
 ハサルヘシ 唯其ノ超過部分ノミニ付キ契約ヲ無効トシ以テ從來ノ
 立法者カ憂フルカ如キ弊ヲ除キ得ヘシ 故ニ近來ハ超過保險ノ場合

ニ契約全部ヲ無効トナサシテ唯其ノ一部ヲ無効トスル主義ニ候ケ
 リ 我商法モ亦然リ(三八六) 尤モ保險契約者ニシテ故意ニ保險
 者ヲ欺キ保險價格ヲ實際ヨリモ高ク設定セシメテ保險金額ヲ約定
 セシメタル場合ニハ實際上保險金額ハ保險價格ニ超過セリトスヘ
 ク從テ如斯場合ハ保險契約者ハ超過保險ニヨリテ不法ニ財産上ノ利
 益ヲ獲得セントスル意思アルモノトスヘク如斯ハ公ノ秩序ニ反ス
 ル事項ヲ目的トセルモノニシテ該保險契約ハ無効ナリト論スルヲ得
 ヘシ 保險價格ヨリモ保險金額ノ低キ場合ハ不足保險スハ一部保險
 ト称ス 一部保險ト称スルハ被保險利益ノ價格全部ニ因シテ保險サ
 レタルニ非スシテ唯其ノ一部ニ對シテノミ保險セラレタリトノ意ヨ
 リ觀察シテスヘルナリ 超過保險ノ場合ト反對ニ保險金額カ保險價
 額ヨリモ低キトキハ保險者ノ責任如何トイフニ我商法ハ諸國一般ノ
 立法例ト同様ニ此場合ニハ保險者ノ責任ハ常ニ保險金額ノ保險價格
 ニ對スル割合ニヨリテ之ヲ定ムヘキモノト定メタリ(三九一) 此

保險ニ因カ

規定ノ結果被保險利益ノ全部カ滅失シタル場合ニ於テモ保險金額ノ
 全部ヲ支拂フニ止マリ若シ其ノ一部ノミ滅失シタルニ止マル場合換
 言スレハ一部ノ損害ニ止マル場合ニハ保險金額ト保險價格トノ割合
 ニヨリテ保險者ノ責任ハ限定セラル、モノトス 例ハ保險價格カ一
 千円ニシテ保險金額カ五百円ナリトセハ保險者ノ責任ハ一〇〇。對
 五〇〇。即チ後ナルカ故ニ被保險利益カ全部滅失シ千円ノ損害生シタ
 ルトキニ於テモ五百円ノ保險金額ヲ支拂ハハ足レリ 若シ損害カ八
 百円ニ止マレリトセハ保險者ハ四百円ヲ支拂ハハ可ナリ 保險金額
 カ損害額以下ナリトテ其全部即五百円ヲ支拂フニ及ハサルナリ
 右ノ如ク一部保險ノ場合ニ保險者ノ責任ヲ保險金額ノ保險價格ニ
 對スル割合ニヨリテ限定スヘキモノトスルモ其保險價格ハ保險契約
 締結ノトキニ於ケル保險價格ナルカスハ事故發生ノトキニ於ケル保
 險價格ナルカ其何レヲ持スベシト當事者ニトリテ實際上大イナル利
 害關係アリ或學者ハ保險契約締結ノ時ニ於ケル保險價格ニヨルヘキ

思ニテ保險契約ヲ締結スルハ保險契約者ハ可成事故ノ發生ヲ防止
 スル事ニ盡カスヘケ即保險事故發生センカ保險契約者ハ完全ナル填
 補ヲ得テ得スシテ自ラ損害ノ一部ヲ忍ハサルハカラサル事トナ
 ルカ故ニ自ラ防止ニ努ムヘケ從テ一部保險ハ保險者ニトリテ實際上
 利益ナリ 保險契約ヲ締結スルニ當リ當事者カ一旦保險價格ヲ按定
 シタルトキハ保險者ハ其後著シク價格ノ變動セル事ヲ証明セサル限
 リ按定シタル額ヲ標準トシテ之ト保險金額トノ割合ニヨリテ損失填
 補ノ責ニ任セサルヘカラス 蓋シ保險價格ヲ按定スルハ事故ノ發生
 ノ際ニ於ケル被保險利益ノ價格ヲ予メ定メオムテ後日ノ紛議ヲ避ケ
 ントスル目的トシテナサル、モノナレハ特ニ著シク變動シタル場合
 ハ格別然ラサル場合ニテモ按定額ニヨラスシテ實際ノ價格ニヨルハ
 キモノトセンカ先ニ按定シタル事ハ何等利益ナキ事ニ歸スヘケレハ
 ナリ

損害保險契約ハ被保險利益アルトキニ非サレハ為ス事ヲ得サレ共

保險ニ関シ

苟クモ被保險利益アル以上ハ其價格ニ違ヌル迄ハ同一目的物ニ付テ
 敬多ノ保險者ト保險契約ヲナシ得ヘキコトハ云フ迄モナシ 然然敬
 四ノ保險契約ヲナシタル結果保險金額ノ合算額カ保險價格ニ越スル
 ニ至ランカ所謂超過保險ニ該當スヘキヲ以テ茲ニ契約ノ一部ノ無効
 ヲ未ヌコト、ナルナリ 但シ此場合ニハ敬四ノ保險契約アリテ其ノ
 保險金額ノ合計カ保險價格ニ超過スル場合ナルヲ以テ何レノ保險契
 約ニ付テ無効ヲ定ムヘキカ規定ナケレハ判断ニ苦マサルヲ得サルヘ
 シ

元来同一ノ被保險利益ニ付テ敬四ノ保險契約カ締結セラル、場合
 ニ保險金額ヲ合算スルモ尚保險價格ニ違セサル場合ト合算額カ保險
 價格ヲ超過スル場合トアリ 後ノ場合ヲ重複保險ト稱ス 重複保險
 ハ同一ノ危険ニ対シ同一ノ被保險利益ヲ保險ニ付スルトキニ初メテ
 存スルモノナリ 保險契約者ニシテ初メヨリ異ナラハ同一目的ニ付
 テ敬四ノ保險カナサル、モ被保險利益同シカラサルヲ以テ重複保險

タルハ、整理ナク又例ハ同一人カ保険契約者タルモ目的ノ異ルトスハ
 同一ノ被保険利益トシテ得サルヲ以テ之ヲ重複保険トラス尚
 被保険利益同一ナルモ同一ノ危険ニ対シ之ヲ保險ニ付シタル場合ニ
 非ナレハ重複保険ト云フヲ得ス 例ハ家屋ノ所有者カ同一家屋ニ付
 テ火災保險ト震災保險トヲナセル場合ノ如キハ被保険利益ハ同一ナ
 リト云ヒ得ハキモ危険ヲ異ニスルヲ以テ重複保險ニ非ス 又重複保
 險タルニハ時ヲ同クシテニ但以上ノ保險ノ存在スル事ヲ必要トス
 故ニ前ノ保險契約カ後ノ保險契約ノ效力ヲ発生スル以前ニ既ニ取消
 サレ若クハ效力ヲ失ハル時又ハ特約ヲナシテ前ノ保險契約カ效力ヲ
 失フ場合ニ初メテ後ノ保險契約カ效力ヲ発生スルモノト定メタル場
 合或ハ前ノ契約カ無効ナル場合ニ若クハ前ノ保險者カ支払無効カ者
 トナレル場合ニ後ノ契約ノ效力ヲ発生スルモノト定メタルトキニハ
 重複保險トラス 要スルニ重複保險トハ同一ノ危険ニ対シ同一ノ被
 保険利益ヲ同時ニ二回以上ノ保險ニ付シ其保險金ノ合算額カ被保険

保險ニ関介

、如ク最初ノ保險者ニシテ先ツ損害ヲ負担スヘキモノトナスニ於テ
 ハ保險料ノ率モ自ラ後ノ保險者ト異ナラサルヲ得ス 然ルニ如斯ク
 ル事ハ實際上煩ニ堪ヘサル加之復ノ保險人ノ責任ニ関シ民法カ常ニ
 平等ノ割合ニヨル事ヲ定メタル矣ニ徴スルモ寧ロ保險金ノ割合ニテ
 填補ノ責ニ任セシムル事ヲ適當ナリトス

被保險利益カ其價格全部保險ニ付セラレタルトキ換言セハ保險價
 格ノ全部ヲ保險ニ付シタルトキハ更ニ其後其被保險利益ヲ保險ニ付
 スルモ其保險契約カ法律上有効タラサル事ハ超過保險ノ原則ヨリ推
 シテ明カナリ 然然後ノ保險契約ヲナスニ當リ其保險者ニ對シテ保
 險契約者カ前ノ保險契約ヨリ生セル権利ヲ讓渡ス事ヲ特約スルカ或
 ハ前ノ保險契約ヨリ生セル権利ヲ全部又ハ一部放棄スヘキコトヲ特
 約スルカ又ハ後ノ保險者ノ責任ヲ前ノ保險者カ支払無効カ者トナリ
 テ填補ノ責任ヲ盡スコト誠ハストノ条件ニ繋ラシムル事ヲ特約スル
 ハ實際上被保險者ハ同一被保險利益ニ付キニ重ノ利得ヲナスコトナ

其故ニ法律ハ特ニ之等ノ場合ニ限リテ後ニナサル、保険契約ヲ有
效トセリ(三八九)

以上述ルカ如ク重複保険ノ場合ニ於ケル各保険者ノ責任ハ法律ニ
テ一定セルカ(三八七、三八八)後日保険者中ノ一人ニ対シ保険契
約者カ権利ヲ放棄セル為他ノ保険者ノ権利義務ニ影響ヲ及ホス事ト
ナリ又ハ所法カ重複保険ノ原則ヲ定メタル事モ根底ヨリ覆ヘサル、
ニ至ルハ之ヲ以テ権利ノ放棄ハ固ヨリ差支ナクモ之^ニ他ノ保険者ニ
対シテ何等^其影響ナクモト定メタリ(三九〇)従テ例ハ保険契約者
カ保険者中ノ一人ニ対シテ権利ヲ放棄スルモ他ノ保険者ハ重複保険
ノ原則ニヨリテ定マレル負担部分ノ範囲内ニ於テ其責ヲ盡セハ足レ
リ

被保険利益ヲ有スルモノニシテ適法ニ保険契約ヲ締結シタル以上
ハ保険事故ノ発生センカ保険者ニ於テ其損害ヲ填補スルハ責任アル
コトハ当然ナレ共法律ハ場合ニヨリテ保険契約ノ有效ニ締結セラレ

保険ニ四分

タルニ拘ラス保険者ヲシテ損害填補ノ責任ヲ免レシムル事アリ 即
保険事故カ保険契約者ノ故意若ケハ重大過失ニヨリテ生シタルハ
保険者ハ損害填補ノ責ニ任スルヲ要セス(三九六)

如斯保険契約者ハ自己ニ故意アルトス又ハ重大ナル過失アルトス
ハ保険者ヲシテ損害ノ填補ヲナシシムル事ヲ得サルヘク而モ事故ノ
発生カ直接自己ノ所為ニ基カスシテ他人ノ所作又ハ不作為ノ結果ニ
ヨレル場合ニテモ之ニ付テ保険契約者ニ過失ノ責^ハス^ル事アリ
而モ其ノ重大過失ト認メラルヘキ場合ニハ保険契約者ハ保険者ニ対
シテ損害填補ヲ請求スルノ権利ナシ 故ニ代理人又ハ使用人ノ作為
若クハ不作為ニヨリ損害ノ発生セル場合ニテモ責任監督ヲ怠レルハ
或ハ之等ノモノニ対シテ不適当ナル指圖ヲナシタルカ為ナル場合
或ハ自己ノ小見カ火ヲ弄ヒテ遊戯セルヲ知リテ之ニ対シ相当ノ監
督ヲナサズ為ニ火災ニ罹レル場合ノ如ク損害ノ発生原因ハ直接保険
契約者ノ所為ニ因ルトスヲ得サルモ尚保険契約者ニ過失ノ責^ハス^ル事アリ

又或アルヲ以テ保險者ハ損害填補ノ責任ヲ免レ得ルナリ 保險契約者ニ於テ事故ノ發生ニ付テ喪失ノ重大過失ノ責アルトキ保險者ヲシテ損害填補ノ責任ヲ免レ得ルモノトナス以上ハ保險契約者ニシテ損害發生ヲ防止シ得ハキニ之ヲ防止セズハ損害發生シタルニ手ヲ求メテ傍觀シ損害ノ拡大スルマ、ニ妨礙シ置クカ如キモ之ヲ許スヘカヲス從テ斯ル場合ニハ又保險者ヲシテ損害填補ノ責任ヲ免レシメテ可ナリ新法四一四條ニ被保險者ハ損害ノ防止ヲカムル事ヲ要スト規定セル所以ハ被保險者ハ被保險利益ニ付テ最モ密接ノ關係ヲ有シ保險目的ノ性質ヲ最モ善ク知り且ソ之カ所置ニ關スル方法ニ最モ善ク辨セルカ故ニ防止義務ヲ課セルモノナリ而シテ被保險者カ此義務ニ違反セルトキハ損害填補ノ責任ヲ免レ得ルモノト解釈シテ可ナリ 尤モ多數ノ見解ハ唯保險者ニ於テ損害賠償ヲ求メ得ルニ止マリ損害填補ノ責任ハ免レスト論セリ 保險契約者カ損害防止ニ務メタル以上ハ夫カ為ニ生シタル費用ハ保險者ノ負担ニ屬スルモノトス 蓋シ防

保險ニ関分

止義務ヲ課シタル理由ハ被保險者カ損害防止ニ便利ナル地位ニアルカ為ニスズシテ其防止ノ為メ利益ヲ受クルモノハ寧ロ保險者ナルヲ以テ防止ノ費用ハ保險者ヲシテ負担セシムル事ハ適當ナレハナリ 従テ又損害防止ノ為メ必要ナル費用若クハ有益ナル費用ニ非サレハ保險者カ負担スヘキモノニ非サル事モ当然ナリ 防止ノ為メ必要ナリシヤズハ有益ナリシヤハ事實問題トシテ決スヘキモノトス 實際ニ於テハ後日ノ紛議ヲ避ケル為メ予メ当事者間ニ於テ其場合ヲ想定シ置クコト少カラス 此防止ノ為メ必要スハ有益ナリシ費用ト損害填補額トカ合シテ保險價格以上ニ昇ルモ保險者ハ支払ノ責任アル事ハ言テ候タス 保險契約ハ被保險利益ヲ有スルモノカ其自己ノ利益ヲ保險ニ付スル事ヲ以テ普通トスレ共法律ハ實際上ノ利益ニ考ヘ他人ノ利益ヲ保險ニ付スル為保險契約ヲナシ得ル事ヲ認メタリ 元來保險契約ノ有效ナル条件トシテ保險セラルヘキ利益即被保險利益カ保險契約ヲナス如ノ人ニ付テ存在セサルハカラサル事ハ既ニ説明セ

ル如ナレ共保險ニ關スル取引ノ便宜上特別ノ制度トシテ他人ノ利益ヲ保險ニ付スル為メ保險契約ヲナシ得ル事カ實際上許サレ所謂他人ノ為ニスル保險契約ナルモノカ各因ニ於テ認メラル、ナリ 我商法四〇一條ニ於テ保險契約ハ他人ノ為ニモ之ヲ為ス事ヲ得トアルハ即之ナリ 例ハ運送人又ハ倉庫業者カ運送ノ為又ハ保管ノ為メ委託セラレタル物品ニ付テ保險契約ヲナス場合ノ如ク或ハ向屋カ敷地若ハ買入ヲ委託セラレタル物品ニ付テ保險契約ヲナス場合ノ如ク荷送人寄託者或ハ委託者ノ利益ヲ保險ニ付スル事少カラス 斯ル場合カ即他人ノ為ニ保險契約ヲナスモノト云フハ也 凡ソ契約上ノ權利義務ハ其契約ノ當事者即自己ノ名ニ於テ契約ヲナス人ノミカ独リ有シ其當事者ノ一方ト第三者トカ如何ナル關係ニアルモ第三者ハ他ノ當事者ニ對シテ何等權利ヲ有シ義務ヲ負フハキモノニ非サル事ハ普通ナリ 此ノ最モ顯著ナル例ハ彼ノ向屋ノ場合ニ於テ見ル如クニシテ向屋ハ委託者ノ計算ニ於テスルトヘキハ自己ノ名ヲ以テ売買契約ヲナ

保險第二回分

スモノナレハ相手方ニ對シテ權利ヲ有シ義務ヲ負担スルモノハ向屋自身ニシテ委託者ニ非ス 委託者ハ向屋ノ相手方ニ對シテ直接ニ何等ノ請求ヲナス事ヲ得ス又其モノヨリ請求ヲ受ケル事モナシ 此ノ理論ハ保險ノ場合ニ於テモ異ナルハキモノニ非ス 共然前述ノ如ク取引ノ便宜上特別ノ制度トシテ認メラル他人ノ為ニスル保險契約ニ於テハ民法ニ於ケル第三者ノ為ニスル契約ノ原則ニ從ヒテ被保險者ハ直接ニ保險契約ヨリ生スル所ノ權利ヲ取得スルナリ 一般ノ保險ニ於テハ保險契約者ト被保險者トハ全一人ナルヲ以テ保險契約者ト云フモ被保險者ト云フモ何等異ナル如ナク混同シテ使明スルモ實際上妨ナシ 反シ他人ノ為ニスル保險契約ノ場合ニ於テハ此兩者ヲ顯然ニ別スルノ必要アリ 保險契約者ハ契約ノ當事者ニシテ被保險者ハ當事者ニ非ス 我商法ニ依レハ他人ノ為ニスル保險契約ノ有效ナルニハ保險契約者カ其他人ノ委任ヲ受ケルカ又ハ委任ヲ受ケサル場合ニハ其旨ヲ被保險者ニ告ケル事ヲ必要トス(四〇二)

他人ノ爲ニスル保險契約ニ似テ否ナルモノハ他人ノ代理人トシテ保
 險契約ヲナス場合及他人ノ所有物ニ于テ自己カ有スル如ク利益ヲ
 保險ニ附スル場合ナリ 前ノ場合ハ保險契約ヲナスモ自己ハ代理人
 トシテ爲スモノナレハ尙三者カ本人トシテ契約ノ当事者タルヘシ
 唯代理权ナキニ拘ラス代理人ト称シテナス場合ハ所謂無权代理人ニ
 ナスル民法ノ規定ニ依ヒテ判断スヘク従テ本人タル第三者ニシテ追
 認スレハ保險契約ハ有效トナルモ然ラサレハ代理人トシテ契約シタ
 ル者自身ニ於テ保險者ニ對シ履行スハ損害賠償ノ責ニ任スヘキノミ
 ナリ 尤モ保險者ハ事故發生スルモ保險金ヲ支払フヘキ責任ナキカ
 故ニ代理人トシテ契約ヲナシタルモノ、方ニ於テモ保險料支払ノ責
 任ナキ結極損害賠償トシテ保險者ニ對シ本人ノ追認ナキ事カ明カト
 ナレド追ノ期間ニ相當スル保險料ニ必直スル金額ヲ支払フニ終ルハ
 シ後ノ場合ハ例ハ其利益カ他人ノ所有物ニ于テ存スルトハ之ハ自
 己ノ利益ヲ保險ニ附スルモノナルヲ以テ他人ノ爲ニスル保險ト異ナ

保險第二回分

レル事ハ云フ違ヒナシ 尤モ實際ニテリテハ果シテ自己ノ利益ヲ保
 險ニ附シタルモノナルモ或ハ他人ノ利益ヲ保險ニ付シタルモノナル
 ヲノ識別シ難キ事往々存スヘシ 他人ノ爲ニスル保險ニ於テモ被保
 險利益ノ性質ハ保險契約者カ自己ノ利益ヲ保險ニ付スル場合ト何等
 異ナルヘキ理由ナク他人カ保險契約者トシテ保險ニ付シタリトテ法
 律上許サレサル利益ニテモ被保險利益タリ得ヘキ理ナシ 故ニ此處
 ニ付テハ前ニ被保險利益ニ付テ述ハタル所カ凡テ適用セラル、モノ
 トス 他人ノ爲ニ保險契約ヲナス場合ニ必ズ被保險者ノ名ヲ示ス
 トカ必要ナルモ如何ト云フニ此處ニ付テハ名ヲ示サ、ルモ可ナリト
 論ヲ通常トス 例ハ倉庫業者カ受寄物ニ付テ所有者ノ爲ニ保險契
 約ヲナス場合、如キ實際其物品ノ所有者ハ倉庫証券ノ所持人ニシ
 テ其所持人ハ現在何人ナルカ倉庫業者ニ於テモ知ル事ヲ得サル場合
 少カラサルヘシ 如斯場合ハ不特定ノ第三者ノ爲ニ保險契約ヲナス
 モノニシテ斯ル保險契約モ有效タルヲ妨ケス 他人ノ爲ニナス保險

契約に付テハ保險契約者ト保險者トノ關係、保險契約者ト被保險者トノ關係及被保險者ト保險者トノ關係ヲ觀察セサルハカラス先ツ第一ノ案ニ付テ考フルニ保險契約者ハ保險ノ當事者ナルヲ以テ保險者ハ此者ニ對シテ保險料ノ支払ヲ求メ得ヘク換言セハ保險契約者ハ保險料支払ノ義務ヲ負擔スヘキモノナリ(四〇一) 告知義務違反ニ關スル意思ハ過失ト云フ事モ保險契約者ニ付テ定ムルモノトス 被保險者ハ契約關係ノ外ニアルモノナレハ原則トシテ何等義務ヲ負フ事ナク然レテ保險料支払ノ義務ナシ尤モ保險契約締結ノ際被保險者カ故意スハ重大過失ニヨリテ重要ナル事實ヲ告ケヌ又ハ不實ノ事ヲ告ケタルモハ保險者ニ於テ契約ヲ解除シ得レ失之レ被保險者カ負擔スル義務ト云フヨリハ寧ロ被保險者カ自ら保險金を請求セシトセハ蓋シオク事ヲ學スル前提条件ニ止マレリ 保險者ハ危険測定ニ付テ必要ナル事實ノ告知ヲ受ケタル時ニ於テノミ保險金を支払ノ責任ヲ負擔スルモノニシテ他人ニヨリテ保險契約ガナサレタリトテ

保險第二回分

被保險者カ之ヲ實行シテ自己カ故意スハ重大過失アルニ拘ラス保險契約上ノ利益ヲ取得スルハ不合理ト云ハサルハカラス 被保險者ハ保險契約ニ於ケル利益ヲ他人トシテ自己カ為スハ凡テノ事ヲ為シタル場合ニ於テノミ保險金ノ支払ヲ求メ得ルナリ 被保險者ノ知ラサル間ニ他人ニヨリテ保險契約ノ為サレタル場合ニハ被保險者ニ告知義務違反ノ向題ヲ生スルノ餘地ナサルヘシ 次ニ第二ノ案ニ付テ考フルニ被保險者ト保險契約者トノ關係ハ種種アリ即チ被保險者カ保險契約者ニ對シテ特ニ責任ヲナシタルカ為ニ保險契約者カ保險者ト契約ヲナス事モアレハ或ハ事務管理ト云フカ如ク何等特別ノ義務ナキニ保險契約者自ラ過シテ任意ニ被保險者ノ為ニ契約ヲナス事モアルヘシ 之等内部關係ノ如何ニヨリテ保險契約者ハ被保險者ニ對シテ報酬ヲ請求シ得ル場合モアレハ然ラサル場合モアルハケ又費用立替金等ノ償還ヲモ求メ得ヘク同時ニ或ハ契約ノ締結ニ關スル報告ヲナスヘキ義務ヲ負擔シ又契約ノ締結ニ關シテ善

良ナル管理者ノナスヘキ注意ヲ取ラサルハカラサル事モアルヘシ
 終リニ第三ノ突即ニ被保險者ト保險者トノ關係ニ付テ見ルニ被
 保險者ハ契約ノ當事者ニ非ナレ共其ノ保險契約ヨリ生スル権利ヲ独
 立シテ取得スルモノニシテ從テ保險者ハ保險契約者ニ對スル債権ヲ
 以テ之ト相殺ヲナス事ヲ得ス 但シ保險料請求權ハ保險契約ニ基ク
 モノナルカ故ニ此ノ債権トハ相殺シ得ヘシ 如斯被保險者ヲ以テ唯
 一ノ権利者トナス事ヲ絶對ニ覆テハ特トシテ實際ノ要求ニ適合セ
 ス 元來保險契約者ハ被保險者トノ關係ニ何等カノ關係アリテ為ス事
 カ普通ナリ 例ハ保險ノ目的ニ付テ或ハ留置權ヲ有スルトカ或ハ債
 權ヲ有スルトカノ關係ニ依テ為ス事ヲ例トス 然ルニ被保險者カ
 事故發生セル場合自由ニ保險金ヲ取立得ルハ保險契約者ノ有スル担
 保權ヲ絶對ニ消滅セシムル事トナリ保險契約者ハ不測ノ損害ヲ被ル
 ハシ 故ニ之ヲ保護スルノ制度ヲ設ケタルコトヲ必キトスヘシ 尤モ
 債權者ハ民法ノ規定ニヨリテ予メ差押ヘノ手續ヲナシテ代表物タル

三稿保三同

保險ノ上ニ質權ヲ行使シ得可シ 此テ債權ハ原則トシテ讓渡シ得ル
 了ハ民法ノ規定ニヨリテ明カナルヲ以テ商法ニ別段ノ規定ナクモ保
 險契約ヨリ生セル知ノ權利ヲ保險契約者カ他人ニ讓渡スル了切ケ
 ス而シテ其讓渡カ了故ノ發生セル以前タルト以後タルト向了了ナ
 シ共然被保險物即保險ノ目的ノ讓渡カ保險ノ上ニ如何ナル効力
 ヲ有スルヤノ問題ニ至ツテハ特別ノ規定ヲ必要トス若シ別段ノ規定
 ナケレハ被保險物カ讓渡セラルレハ茲ニ保險ノ係ハ終了ヲ来スモノ
 ト解セサル可カラス蓋シ保險契約者ニハ最早被保險利益存在セサル
 ト同時ニ讓渡人ト保險者トノ間ニ何等契約ノ係發生セサレハナリ
 共然如斯スル了カ社会ノ實際ノ了情ニ適合セサル虞アリ何者被保險
 物ニ于シ旧所有者ノ有セル利益ハ新所有者ニ此カ存続ヲ欲スル場合
 少ナカラス而シテ保險者ニトリテモ前ノ保險契約ヲ消滅セシメ新ニ
 保險契約ヲナスノ煩ヲ避ケ得ル了便利ナレハナリ故ニ商法ハ被保險
 者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタル片ハ同時ニ保險契約ニヨリテ生シタル

権利ヲ讓渡シタルモノト推定セリ(四〇四)
 尤モ此高法ノ推定ニ依レハ單ニ権利ヲ讓渡シタルモノト推定スト
 リテ義務ニ付テハ言フ処ナキカ故ニ義務モ合セテ移轉スルヤ否ヤニ
 付テハ議論ノ餘地アリ 人ニ依リテハ契約上ノ権利義務ハ凡テ被保
 險物ノ讓受人ニ移轉スル趣旨ト解シ從テ讓受人ハ自己ニ所有権ヲ移
 轉セル時期以後ノ保険料ニ付テ支払責任アリト論セリ 此反或論者
 ハ義務ハ依然トシテ元ノ契約者ニ殘存シ被保險物ノ讓受人ハ單ニ契
 約上ノ権利即チ保費ヲ請求スル権利ノミヲ取得スルニ止マリテ何
 等義務ヲ負担スルコトナシト論セリ其然法ノ精神ハ契約ヲ係ク被保險
 物ノ讓渡ト同時ニ移轉スルコトヲ定メタルモノナリト解ス可ク從テ其
 以後ノ保険料支払義務ハ新ニ被保險物ノ所有者トナリタル者ニ生ス
 ルモノト解ス可キナリ從テ又讓渡人カ保険料ノ支払ヲ怠ル場合ニハ
 保險者ハ契約ノ解除ヲモナシ得ヘシ
 然ラハ保費契約者カ保険料ノ支払ヲ怠リツ、アル間ニ被保險物ヲ他

三稿保三同

人ニ讓渡シタル片ハ如何?
 保險者ハ讓受人ニ對シテ前者ノ義務不履行ヲ理由トシテ保費契約ヲ
 解除シ得ルヤト云フニ、妨ケナシト信ス 蓋シ讓受人ハ前者ノ地位ヲ
 承継シテ保險者ト契約ヲ係ニ立ツモノナルカ故ニ前者ノ地位ニ
 セシ義務亦承継シ自ツカラ定ヲ実行ス可キ地位ニアルモノト解スヘ
 ケレハナリ四〇四條一項ノ規定ハ推定ニ止マルカ故ニ當テ者ニシテ
 反証ヲ舉クルニ於テハ保費契約ノ義務セラルルヤ可即チ保費係ノ
 終了セルコトヲ主張スルコト妨ケス尚ホ四〇四條一項ノ規定ハ広ク被保
 險物讓渡ノ場合ニ適用セラルルモノナルカ故ニ其讓渡カ民ノ訴訟法
 ノ強制競売競売法ノ競売ニヨル場合ニテモ其ニ適用セラル可シ
 右ニ迷ヘタルカ如ク法律ハ被保險物ノ讓渡アル片ニ保費契約ニヨル
 権利ヲモ俟セテ讓渡セラレタルモノト推定セルカ其讓渡カ著シク危
 險ヲ變更シ又ハ増加セル片換言スレハ讓渡ノ結果テ故發生ノ程度カ
 著シク異ナル場合ニハ法律ハ当然保費契約ノ効力消滅スルモノト定

×タリ(四〇四条二項)

保険契約ハ前ニモ述ヘタルカ如ク諾成契約ニシテ同意アレハ直ニ契約成立シ別ニ方式ヲ必要トセス其然保険者ハ保険契約者ノ請求アルニ於テハ保険証券ヲ發行シテ之ヲ交付セザル可ラス(四〇三)
保険証券ハ契約成立以前ニ於テ發行スルコトヲ得サルハ言フコト俟タザレ共必スシモ契約成立ト同時タルヲ要セス成立後何時ニテモ可ナリ唯實際ニ於テハ契約成立ノ際發行スルコト多シ而シテ保険証券ニハ必ス一定ノコト項ヲ記載シテ保険者ノ署名スルコトヲ必要トス保険証券ハ保険契約ノ内容ヲ明カニスル効カヲ有スルニ止マリ証據証券ノ一種タリ即保険契約上ノ権利義務カ如何ナルモノナルカヲ止ニヨリテ一應証明スルアリ保険証券ノ發行セラレタルト否トヲ問ハス保険契約上ノ権利ハ債權讓渡ノ手續ニヨリテ之ヲ他人ニ移轉シ得ヘク又保険証券ノ存否ニ拘ラス保険契約上ノ権利ヲ行使シ得可シ從テ保険証券ハ所謂有價証券ニ非スト解スルヲ相当トス尤モ保険証券ヲ發行スル

三橋保三回

ニ当リ指當式又ハ無記名式トナシタル場合若クハ当コト者カ保険証券ノ返還ト引換ニ保険金ヲ支払フ可キ旨ヲ定メタル場合ノ如キハ保険証券ヲ占有スル者ニ非サレハ権利ヲ移轉シ又ハ行使シ能ハザルカ故ニ斯ル場合ニハ保険証券ハ有價証券ナリト解シテ可ナリ人ニ依リテハ如斯場合ニハ所謂免費証券タルニスキスト論セリ
保険契約ノ消滅スルコト由ハ左ノ如シ

1. 特約
2. 保険期間ノ滿了
3. 被保険利益ノ喪失
4. コト故不發生ノ確定セルコト
5. 保険期間中保険契約者又ハ被保険者ノ責ニ歸ス可キコト由ニヨリテコト故發生ノ程度カ著シク変更シ又ハ増加シタル片
6. 保険ノ目的ノ讓渡カ著シク危險ヲ変更増加シタル片
7. 解除

解除ハ民法ノ一般規定ニヨリ得ルハ〇

解除ハ民法ノ一般規定ニヨリ得ルハ外告知義務違反ヲ理由トシテ保険者カナシ得ヘキハ既ニ此ヲ述ヘタリ此外保険者若クハ保険契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル片ハ相手方ハ契約ノ解除ヲナシ得可シ但シ保険契約者ニシテ既ニ保険料ノ全部ヲ支払タル後ニ於テハ保険者ニ於テ解除スルヲ得ヌ(四〇五)

尚ホ商法四〇七条ニヨレハ保険者ノ責任カ始マラサル前ニ於テハ保険契約者ハ自由ニ契約ヲ解除スルヲ得ルナリ此レハ保険者ノ責任ノ始マラサル前ニ於テハ保険者ハ未タ危険ヲ負担セズ契約ヲ解除セラルルモ敢テ此カタメニ損失ヲ蒙ル所ナシトノ理由ニ出テタルモノトス法律カ保険契約者ニノミ解除ノ權ヲ與ヘ保険者ニ對シテハ一旦契約ヲナシタル以上ハ例ヘ未タ責任カ始マラサル間ニ於テモ任意ニ解除スルヲ禁セル処以ハ被保険者ノ利益ヲ保護セントスル趣旨ニ出テタルモノト

三稿保障者四回

商法四一一条ニヨレハ保険期間中危険カ保険契約者又ハ被保険者ノ責ニ歸スヘカラサルヲ由ニヨリテ著シク変更又ハ増加シタル片ハ保険者ハ契約ノ解除ヲナスヲ得ルナリ但シ此ノ解除ハ將來ニ何ツテノミ効カヲ生スルニ止マレリ
保障契約ヨリ生シタル債権中保険金支払ノ債権ハ二年保険料支払ノ債権ハ一年ノ时效ニヨリテ消滅スルモノトス 單ニ保障契約ニ干聯シテ生シタル債権ニスギサルモノハ商行為ノ一般債権ニ屬スル时效ニヨリテ消滅スルモノトス
テ故ニ發生シタル片ニ被保険者ニ對シ保險者ヨリ損害ヲ填補ス可キ義務即保険金支払ノ義務ハ他ニ被保險者ニ對シニ大小義務ヲ負担スルモノアリトノ理由ニヨリ此カ履行ヲ拒ムヲ得ヌ即損害カ者三者ノ行爲ニヨリテ生シタル場合ニ於テモ被保險者ハ保障契約ノ効カトシテ保險者ニ對シ損害ノ填補ヲ求ムルヲ得可シ 唯保險者ニシテ加害者ノ負担ス可キ金額以

上ノ保障金ヲ支払ヒタル片ハ尚法四一六条ノ規定ニヨリテ保
 険者ハ其支払ヒタル金額ノ限友ニ於テ保障契約者又ハ被保障
 者ノオ三者ニ対シテ有セル損害賠償請求権ヲ取得スルモノト
 ス 如斯損害ノ填補ヲナシタル保障者ハ加害者ニ対スル賠償
 請求権ヲ法律ノ規定ニヨリテ当然取得スルカ故ニ最早保障ノ
 支払ヲ受ケタル以後ニ於テハ保障契約者又ハ被保障者ハ其ノ
 範圍ニ於テ加害者ニ対シ賠償ノ請求ヲナスヲ得ス 然ラサレ
 ハ二重ノ利益ヲ受クルトナリテ失當ナリ
 共然保障金ノ未タ支払ハレカル以前ニ於テハ保障契約者又ハ
 被保障者ハ其ノ賠償請求権ヲ所分行使スルヲ妨ケラルモノ
 ニ在ラズ故ニ此ヲ他人ニ讓渡スルトモ此ヲ放棄スルトモ又此
 レニ付キ和解ヲナス等ノ一ハ凡テ其自由ナリ但シ如斯所分力
 保障契約者又ハ被保障者ト加害者トノ間ニ意思アリテナサレ
 タル片ニハ保障者ハ責任ヲ免ル可キモノトス

三 被保障者

保障者カ損害ノ全部ヲ填補セサル場合ニ於テハ保障契約者又
 ハ被保障者ノ損害賠償請求権ヲ妨ケサル限友ニ於テは賠償者
 加害者ニ対シテノ賠償請求権ヲ行使シ得ルモノトス
 保障ノ目的カ全部滅失シタル場合ニ於テ保障金ノ全部ヲ支払
 ヒタル片ハ被保障者ハ損害ノ填補ヲ受ケタルモノナルヲ以テ
 従来其ノ目的ニ就テ有セシ所ノ権利ヲ其マ、被保障者ニ移
 セシメ置クノ必要ナシ 従テ法律ハ如斯場合ニハ保障者ノ
 ノ権利ヲ当然取得スルモノト規定セリ (四一五)

例ハ保障價格千円ノ建物ニ付テ保障金千円ト定メ保障ニ附
 シタル其建物カ全部焼失シテ保障者ヨリ一千円ヲ支払ヒタ
 ル場合ニハ焼残物例ハ半焼ノ木材ノ所有権ハ全部保障者ニ移
 轉スルナリ 但シ保障價格ノ一部ヲ保障ニ付シタル場合ニ於
 テハ保障者ハ保障金額ノ保障價格ニ対スル割合ニヨリテ権利
 ヲ取得スルモノトス例ハ前例ニ於テ保障金カ五百円ナリトモ

ハ 1000=500 即チ1/2ノ割合ニヨリテ燒殘物ノ貯蓄
取ヲ取得スルナリ

第二節 火災保障

火災保障ハ損害保障ノ一種ニシテ火災ナルヲ故ノタメニ被保
障物ノ滅失セル損害ヲ保障契約者又ハ被保障者(他人ノ為メニ
スル保障契約ニ於テハ)ニ填補スルヲ目的トスルモノナリ
火災保障ハ被保障物ヲ標準トスレハ火ヲ動産保障ト建物保障ト
ノ二種ニ分ツヲ得可シ
動産保障ノ目的タリ得ルモノハ家具ハ勿論機械器具其他運送品
又ハ倉庫保管品ニテモ可ナリ
又建物保障ノ目的タルニハ英ノ構造材料ノ如何ヲ問ハス普通建
物トシテ認メラルル種類ノモノナレハ是レリ 未完成ノ建物ニ
チモ既ニ主要部分ノ存在セル程度ニ達セル以上ハ火ニ付キ火災
保障ヲナスヲ得ケス

三、保才立回

又建物ノ一部ヲ保障ニ付スルヲモナシ得可シ 唯實際ニ於テハ
別段ノ意思表示ナキ限り全部ヲ保障ニ付シタルモノト認ム可キ
ナリ

火災保障ハ火災ニヨリテ生シタル損害ヲ填補スルモノナルカ高
法ノ規定スル所ニ依レハ其火災ノ原因ノ如何ヲ問ハス從テ爆発
又ハ落雷ノタメニ發生シタル火災ニテモ可ナリ(四一九)
其然被保障物自体ノ固有ノ性質ヨリ自然ニ其モノカ燒失セシ場
合ハ当然除外セラル可キナリ 尤モ當テ者カ特約ヲナシテ如斯
損害ニ付テモ尚保障ヲナスヲ得ケス
火災保障ニ於テ保障者カ填補ス可キ損害ノ範圍如何ト云フニ保
障者ハ火災ニヨリテ直接ニ被保障物ニ生シタル所ノ損害ノミナ
ラス 火災ノ結果間接ニ被保障物ニ生シタル損害ヲモ填補セザ
ル可ラス 火災ニヨリ直接ニ被保障物ニ生セシ損害トハ火カノ
タメ燒失セル損害ヲ意味スルナリ也及火災ノ結果間接ニ被保障

物ニ生セル損害トハ火災ノ際混雜シテ毀損セルカ如キモ是火災ヲ避クルタメ被保險物ヲ破壊スルカ如キ又ハ火災ヲ避クルタメ搬出シテ毀損スルカ如キヲ指スナリ

如斯火災ニヨリテ生シタル損害ハ其ノ火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者ニ於テ生ヲ填補セサル可カラサルモ若シ其ノ火災カ戰爭其他ノ變乱ニヨリテ生シタル場合モ是ニ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ依リテ生シタル場合ハ保險者ニ填補ノ責任ナキモノトス 但シ前ノ場合ニ因シテハ特約ヲ以テ填補責任アルモノト定ムルサ妨ケス

火災ニヨリテ滅失毀損セルモノハ數何マルモ火災ノ同一ナル一サ妨ケサルハ去クマテモナキカ滅失セル物例ハ建物カ一例ナレハトテ必シモ火災カ同一ナリト斷言スルヲ得ズ 蓋シ同一ノ建物ハ二以上ノ火災ニ罹リテ燒失シ其ノ火災ノ原因又異ナルトアレハナリ

保險者其回

而シテ同一火災ト看做ス可キ以上ハ火災發生ノ原因カ保險期間内ニアレハ例へ被保險物カ其火災ニ罹リテ燒失セル時刻ハ保險期間以後ニアルモ尚ホ保險者ニ填補ノ責任任スヘキモノトス 蓋シ目的物ニ及ヒタル火災カ保險期間内ニ於テ發生シ遂ニ之ヲ燒失スルニ至リタル以上ハ其損害ハ保險者ノ負担セル危險即チ保險丁故ニヨリテ生シタルモノト認ム可ケレハナリ

火災保障モ他ノ損害保障ト同シク保障丁故ニ因リテ生シタル損害ヲ填補スルニ止リテ火災ノ爲ト被保險者ヲシテ反ツテ利益セシムルカ被保險者トハ止テ許ス可カラズ 其然一般ノ損害保障ノ原則ニヨリテ(三九三)被保險物ノ觀的價格ヲ標準トシテ損害額トナス時ハ火災保障ノ場合ニ實際ノ一情ニ適ハサルト少ナカラズ 例ハ被保險物ノ客觀的價格ハ保障丁故ノ發生セル際ニハ甚ダシク僅少ノ一アルモ其ノ所有者ヨリ免レハ尙ホ遠ニ大ナル價格ヲ有スルモノト認ム可キ場合ニ因リテ故ニ一般的價格ヲ標準トシ

テ損害額ヲ算出シルカ模様ニ受ケタル丈ニテハ被保者ハ到任
 新ニ前ト同一ノモノヲ調達スルヲ得サル不便アリ 故ニ此ノ場
 合ニ保障ノ故発生ノ時ニ於ケルニ 賠償額ヲ保障額ト見積ルハ案
 際火災保障ヲ付シタル者ニ付テハ 故意ニ過ハス 故ニ口ニ依リテ
 ハ火災保障ニ關シテ特別ノ規定ニ設ケテ日甲器具ノ如キモノニ付
 テハ何種ノモノヲ危入ルルニ必要ナル丈ノ價額ヲ損害額トシテ
 計算スル所アリ 我邦法ニハ如斯規定ナキカ故ニ一般ノ損害保
 險ニ關スル原則ニ從フニ非ナシ

火災ノ発生ニヨリテ被保物カ焼失シタル場合ニ於テハ保障契
 約者又ハ被保者ハ其損害発生ノ一実ヲ知リタル片ヨリ遅滞ナ
 ク保障者ニ宛テ損害^者ノ一実ヲ通知セサル可カラズ 此ノハ一
 般ノ損害保障ニ關スル四一二条ノ規定ニ徴シ明カナリ
 口ニヨリテハ火災保障ニ關シテハ保障契約者先ニ被保者ノ利
 益ノ爲メニ一定ノ期間内ニ通知スレハ常ニ遅延ナキモノト定ム

保障者共回

ル所アレ共我口ニ於テハ別段ノ規定ナキカ故ニ實際問題トシテ
 ハ僅カニ一曰^者過シタルニシテモ尚ホ遅延アリト
 認めラル、一アル可シ 而シテ保障契約者先ニ被保者ニ在リ
 如キ通知義務ヲ負ハシムル所以ハ保障者ヲシテ損害ニ付キ正確
 ナル調査ヲナス機会ヲ逸セシメサルニアルヲ以テ保障者ニシテ
 既ニ自カラ保障ノ故ノ発生シ損害ノ生シタル一ヲ知レル以上ハ
 例へ被保者カ通知ヲ怠ルモ保障者ハ此ヲ以テ損害^者ノ責任ヲ
 免カル、一ヲ得サルモノト解セサル可カラズ 尤モ實際保障者
 生ノ一実ヲ保障者ニ於テ兼知シ居レリト一ハ保障契約者又ハ
 被保者ニ於テ此ヲ立証セサル可カラズ
 保障者カ損害額ヲ調査計算スルニ當リテハ予メ保障約款ニヨリ
 テ定メタル方法ニヨル可キハ勿論ナレ共別段ノ定メナキ時ハ保
 險契約者又ハ被保者ノ被害報告^者被保物ノ焼残部分アル時
 ハ其状態價額 火災ヨリ救助シ得ルモノヲハ其ノモノノ價

額 係保契約者又ハ被保険者ノ為メニ作ラレタル書類例ハ物品
 ノ代金受取書建物ノ設計書ノ如キ書類 其他現場ノ捺証等ニヨ
 リテ判断ス可キナリ
 保険者ハ其ノ発生シタル損害ノ額ニ應ジテ保険金ヲ支払フ可キ
 責任アルカ被保物ノ一部カ焼失シタルニ止マル片ハ保険契約ハ
 終了スルモノニ非ス尚其ノ残存セル目的物ニ關シテ存続スヘシ
 共然其ノ填補セラレタル金額ヲ以テテ故發生以前ノ程度ニ復旧
 スルモ此カ為メニ元ノ保険金額カ其ノ復旧セル全体ニ付キ存続
 スルモノニハアラス換言セハ全体ニ付テ当然復活スルモノニハ
 非サルナリ
 若シ復旧シタル目的物ヲ被保険物トオサントセハ更ニ新ナル保
 険契約ヲナスノ外ナシ
 全損ノ場合即チ被保険物カ全部滅失シタル片若クハ使用シ得ヘ
 カラサル程度ニ毀損セル片ハ被保険利益消滅スルカ故ニ保険契

保険者同

約ノ当然終了スヘキハ謂フマテモナシ

第三節 運送 保 険

茲ニ運送保険トハ所謂陸上運送ノ危険ニ対シテ物品ノ保険ヨナ
 ス場合ノミヲ指スナリ
 □ニヨリテハ湖川港湾ニ於ケル航行ノ危険ニ対シテ船舶ノ保険
 ヲナス場合ヲモ包含シテ運送保険ト称シ之カ規定ヲ設クル所ア
 レ共我邦法ハ船舶ニ付テハ全々規定ヲ欠ルセリ
 又陸上運送ノ危険ニ対シテ旅客ノ生命健康ヲ保険スルハ諸口
 何レモ此ヲ運送保険ト称セズ 共然理論上此ノ場合ヲ運送保険
 中ニ編入ス可カラスト去テ次第ニハ在ラス 唯従来如斯場合
 レヲ傷害保険トシテ別ニ取扱ヘルニスキス
 運送ノ危険ニ曝サレタル運送品ニ対シテ被保険利益ヲ有スルモノ
 ノハ其ノ利益ノ如何ナル種類ヲルヲ向ハス運送保険ヲナシ得ル

ナリ故ニ運送品ニ付キ所有権ヲ有スルモノハ勿論 運送品ニ付キ
 シテ利害關係ヲ有スルモノハ運送保障ノ被保障者ナリ得ルナリ
 運送保障モ損害保障ノ一種ナルカ火災保障ノ如ク特種ノ危険
 (火災)ニ原因スル損害ニ限ラル、
 一、ナク苟モ運送ニ關スル危
 険タル以上ハ如何ナル程度ヲ屬ハス凡テ此ニツキ保障スルモノ
 ナリ 故ニ火災タルト盜難タルト流没タルトニ拘ラズ保障繼續
 中ニ於テ運送品ニ損害ノ生スル以上ハ保障者ハ常に此ヲ填補ス
 ヘキモノトス

我商法ニヨレハ運送保障ハ特約ナキ限り運送人カ運送品ヲ受取
 リタル時ヨリ此ヲ荷受人ニ引渡スマテ繼續スルモノニシテ此ノ
 間ニ生シタル損害ハ保障者ニ於テ填補セサル可カラズ (四二三)

保障第六回

從テ被保障者ハ保障ノ既ニ開始セルト及其開始、
 一、マテハ運送品ニ何等異常ナクナリシトモニ保障ノ係屬中ニ損害ノ發生シタル
 一、ニ至リテ證明スレハ危命ニシテ保障者ハ之ニ對シ其ノ損害ノ
 被保障者ノ意思若クハ重過失ニ基キトク又ハ被保障者ノ故意
 一、生シタリトカ云フカ如キ免責ノ由ヲ持テ舉証セサル限リ被
 保障者夫故ノ責任ヲルモノトス
 如斯運送保障ノ危険ヲ故ハ被クシテ無制限ナルヲ原則トス惟當
 一、有カ特約ヲ以テ或ル種類ノ危険ニ付テハ責任ナシト定ムル
 一、可クヤサルノミナリ
 我商法ノ規定ニ依レハ保障者ノ責任期間ハ右ニ述ヘタルモノ
 運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡スル時
 ナリ 故ニ實際荷受人ニ引渡カ、ル限リハ其ノ物品ニ生スル所
 一、損害ニ付テハ保障者ノ填補ノ責任ヲ免ル、
 一、ヲ得ス 然レ荷受人
 一、ヲ確知スルト能ハス差ツハ運送品ノ引渡シニ關シテ爭ヒアル

片ハ尚法三四五条以下ノ規定ニヨリ運送人ハ其ノ運送品ヲ供託
 或ハ競売スルヲ得可クモ、供託者クハ競売ヲ以テ運送ハ終了
 セルモノト解スヘキカ故ニ運送保険モ以テ運送品ノ供託者クハ
 競売ノ片ヲ以テ終了スルモノト解スルヲ相当トス
 運送品ニ就テ如何ナル利益タルトテ同ハス又苟モ利益ヲ有スル
 者ハ何人ニテモ運送保険契約ヲナシ得ルヲハ既ニ之ヲ速ヘタリ
 從テ物品ノ値ヲ以テ保険価格ト算スルヲモアレハ物カ到達地ニ
 到達セル片得可キ利益即チ場所ノ変更ニヨリテ物品ノ増加スヘ
 キ利益ヲモ保険価格中ニ算入スルヲ妨ケス 然レ其ノ法ハ如斯
 物品ノ到達ニヨリテ得可キ利益ハ當テ者ニ於テ特約ヲナシタル
 片ニ限リ之ヲ保険価格中ニ算入スルヲ許シ一般ニハ被保険利
 益ノ如何ナル利益タルトテ同ハス法律ニテ保険価格ヲ一定セリ
 即チ尚法四二四条ニ依レハ運送保険ニ於ケル保険価格ハ物品ノ
 發送ノ地ニ於テ其ノ發送ノ片ニ物品カ有セル市価及ヒ到達地迄

保険第六回

運賃其他運送人カ荷作り等ニ付テ支出シタル費用ヲ合算シテ
 ルモノトス故ニ右ノ保険価格ト同一額ヲ保険価格ト定ムレハ物
 品ノ全部滅失ノ場合ニハ被保険者ハ保険金全部ノ支払ヲ受ケ得
 可ク又物品ノ一部カ滅失セルニ止レハ其ノ滅失シタル部分丈ニ
 相当スル保険金ノ支払ヒヲ受ケ得可シ
 保険金額カ右ノ保険価額以下ナル片ハ一部保険ノ原則ニヨリテ
 保険金額ノ保険価額ニ対スル割合ニヨリテ保険者ハ保険金ヲ支
 払フ可キナリ
 若シ運送品カ滅失セスシテ單ニ毀損シテ到達地ニ達シタル片ハ
 如何ナル割合ニヨリテ保険者ノ負担ヲ定ム可キカ海上保険ニ付
 テハ尚法六六九条ニ保険ノ目的タル積荷カ毀損シテ陸上港ニ到
 達シタル時ハ保険者ハ其ノ積荷カ毀損シタル状況ニ於ケル價格
 ノ毀損セサル状況ニ於テ有ス可カリシ價格ニ対スル割合ヲ以テ
 保険價格ノ一部ヲ填補スル責ニ任スト定ムレ共陸上運送保険ニ

付テハ内法ニ別條ノ規定ナシ
 保障期間中保障契約者又ハ被保障者ノ責ニ歸ス可カラサルヲ由
 ニヨリテ危障カ著シク変更又ハ増加シタル片ハ保障者ハ契約ノ
 解除ヲナシ得ルヲハ損害保障ニ関スル終則(四一一)ニヨリテ
 明カナルモ運送ノ方法或ハ道筋ヲ変更シ又ハ運送ヲ一時中止ス
 ルカ如キ一ハ時トシテ避ケ難キ場合アリ而モ保障契約者又ハ被
 保障者ニ於テ止ニ付キ如何トモ処置シ難キ場合少ナカラサルヲ
 以テ運送保障ニ関シテハ危障ノ変更増加スル場合ニテモ夫レカ
 特ニ運送ノ必要ニ出テタル片ハ保障契約ノ効力ニ影響ヲ及サ
 ルトセリ(四二六)

第二章 生命保障

人ノ生命カ幾何継続スルカ即チ何時死亡スルカ若クハ一定ノ
 年令迄生存スルカト云フヲハ基ヨリ不確定ナリ 此ノ不確定ノ

保障者七同

一莫ニ関シ保障者カ危障ヲ負担スル契約ヲ生命保障契約ト称ス
 換言セハ生命保障ハ人ノ死亡若シクハ生存ト云フヲ保障ト故
 トシテ其ノ一故發生ノ際ニ一定ノ金額ヲ支払フモノニシテ保障
 ヲ申込タル人即チ相手方ノ生命ニ関スル場合モ又其以外ノ人ノ
 生命ニ関スル場合モアリ得ルナリ(四二七)
 而シテ保障者ノ支払ヲ被保障者ノ死亡スル時トスルモ被保障者
 カ一定ノ年令ニ達スル時トスルモ亦一定ノ年令ニ達スル片ハ切
 斷違セサル内ニ死亡スル片トスルモ其ハ自由ニ定メ得可シ
 他人ヲ被保障者トシ以テ其ノ死亡ヲ保障ト故トシテ保障者ノ支
 払ヒヲナスヲ約束スル場合ハ保障契約者其他ノ利害關係人ハ
 其ノ一故ノ發生ヲ惹起スル危障ナシトセサルヲ以テ之ヲ保護ス
 ル為メ法律ハ特ニ斯ル契約ノ有効ニ成立スルノ条件トシテ其ノ
 者ノ同意ヲ必要トスト定メタリ(四二八条ノ二)
 若シ其者ニシテ行為無能力者ナル時ハ其ノ法定代理人ノ同意ヲ

必要トス可シ

此ノ同意ハ法律上必シモ書面ニ依リテ之ヲナス可キヲハ強要セ
サルモ實際上書面ニヨル同意ニ在ラサレハ後日ノ証據ニ依リシ
キヨ以テ單純ニ口頭ヲ以テナス場合ハ殆ントナカル可シ
父又ハ母カ其ノ親権ノ下ニアル子ヲ被保者トシテ斯ル契約ヲ
ナス場合ニハ其ノ子ノ爲メニ同意ヲ出フル特別代理人ノ送任ヲ
必要トス

他人ヲ被保者トシテ其ノ死亡ヲ保障スルモ其ノ被保者
者ニシテ保金ヲ受取ルモノトセル場合ハ前述ノ如キ危険ノ虞
ナキヲ以テ此ノ場合ニハ同意ヲ必要トセス

此ノ他人ヲ被保者トシ其ノ死亡ヲ保障スル保金ハ金銭
ノ貸借有ル場合ニ貸主ハ借主ノ死亡ノ際其ノ貸金ノ返還ヲ確保
スル手段トシテ盡マ行ハルル所ナリ
他人ノ生命ニ関シテ保金契約ノナカルル場合ニ於テハ法律ハ其

保費ヲ七回

一人ニ対シテモ亦告知義務ヲ負担セシメタリ 故ニ其ノ被保者
者ニシテ重要ナルヲ実ヲ告ケヌ又ハ重要ナル事項ニ付キ不実ノ
ヲ告ケタル片ハ保費契約者ニ於テ之等ノ行為アリタル場合ト
同シク保費者ハ保費契約ヲ解除シ得可シ(四二九)
此ノ告知義務ノ性質先ニ解除取ノ行使期間等ニ付テハ既ニ之ヲ
述ヘタル損害保費ノ場合ト異ナル所ナシ

保費期間中危険ノ変更増加セル場合ニ於ケル保費者ノ責任ニ付
テモ亦損害保費ノ場合ニ述ヘタル所ト同一ナリ 例ハ職業ニ趣
クカ如キ或ハ又従来温帯地方ニ居住セシ者カ熱帯地方ニ旅行ス
ルカ如キ又ハ職業ノ種類ヲ変シテ危険ナル業務ニ従テスルカ如
キハ何レモ皆着シク危険ノ変更若シクハ増加セルモノト云ハサ
ル可カラズ 而モ如斯ク情カ保費契約者又ハ被保者ノ責ニ歸
ス可キヲ由ニヨル場合ハ当然ニ其ノ保費契約ハ効力ヲ失ヒ又之
等ノ者ノ責ニ歸ス可カラサルヲ由ニ依ル片ハ保費者ハ契約ヲ解

除スルヲ得可シ(四三三、四一〇、四一一)
 其然吾人生活上絶へス其ノ状況ノ変更スルハ實際上免レ難キ
 所ナルカ故ニ生命保険ニ関シテハ寧ろ危険ノ変更増加カ保険者
 ノ責任ニ影響ヲ及ホス場合ヲ制限スルヲ適當ナリトス 現ニ独
 乙ノ保険法ノ如キハ當者ハ書面ヲ以テ危険ノ増加ヲ明約シタル
 一項ニ在ラサレハ保険契約ニ影響ナシトセリ(獨内一六四)
 生命保険契約ヲナスニ當リ保険契約者自カラ保険金ヲ受取ラス
 シテ他人ヲシテ受取ラシムルヲ妨ケス而シテ如斯場合ニハ其
 ノ指定セラレタル者ハ尚法才四二八条ノ二ノ一項ニヨリテ
 当然ニ保険契約ノ利益ヲ享受シ保険金ノ請求権ヲ取得ス可シ而
 シテ其ノ外三者ノ権利ハ寧ろ保険契約ニ登スルトハ去ハ既ニ一
 收手得シタル以上最早独立セル権利ト去フ可ク其ノ後ニ於テ保
 険契約者ハ之ヲ変更シ又ハ消滅セシムルヲ得サルモノト去ハ
 サル可カラス

保険才七四

然レ夫法律ハ保険契約者ハ保険金受取人ヲ後日変更スルノ権利
 ヲ特別ノ意思表示ヲ以テ留保シ得ル旨ヲ認メタリ(同条但書)
 保険金受取人ヲ指定スルハ保険契約締結ノ際ニナスモ其ノ後
 ニ於テナスモ可ナリ 又三者ヲ保険金受取人ト指定スルニハ通
 常ハ特定セル人ヲ挙ク可キ場合ニアリテハ後日其ノ特定人ヲ定
 ムルトシ免ニ角保険金受取人ハ保険契約者以外ノモノトスル
 旨ヲ定メオクモ妨ケナシ 若シ如斯場合ニ其ノ儘又三者ヲ指定
 セスシテ保険契約者カ死亡シタリトセンカ結構又三者ヲ指定セ
 サリシトニ帰着シ保険契約者ノ相続人カ保険金ヲ請求シ得可キ
 ナリ 之レニ反シ保険契約者カ自己ノ生存中ハ自己ヲ保険金受
 取人トシ自己ノ死後ハ特定ノ又三者ヲ保険金受取人トナス可キ
 旨ヲ定メタルハ保険契約者ノ死亡スルヤ直ニ其ノ外三者ニ保
 険金請求権發生スルヲ以テ保険契約者ノ相続人ハ保険金ノ請求
 権ヲ取得ス可キ餘地ナシ

尤モ右ノ如ク保険契約者ノ死後ニ於テハ三者ヲシテ保険金
 ヲ受取ラシムルヲ定メタル中ハ保険契約者ノ生存中ハ未ダ其
 ノ三者ハ保険金請求権ヲ取得セザルモノナルカ故ニ保険契約
 者ハ何時ニテモ任意ニ保険金受取人ヲ変更スルヲ妨ケス
 保険契約者カ保険金受取人ヲ指定スルモ之ヲ変更スル権利ヲ留
 保シ得ル下ハ右ニ述ヘタル如クナルモ此ノ場合留保セラレタ
 ル変更権ハ保険契約者ニ專屬スルモノニシテ相續人ニ移轉スル
 下ナシ斯ク保険契約者カ変更権ヲ行ハスシテ死セシムルカ故ニ保
 険金受取人ノ権利ハ確定スルモノトス（四二八条ノ二ノ二項）
 保険金受取人ヲ指定スル下ハ保険契約者カ自己ノ生命ニ関シテ
 保険契約ヲナシタル場合ト他人ノ生命ニ関シ保険契約ヲナシタ
 ル場合トヲ別ハス取テ何レノ場合ニ於テモ此ノナシ得ルモノナ
 リ從テ被保険者カ同時ニ保険金受取人ト定メラル、下モアル可
 シ

保険者七四

保険金受取人ヲ指定スルニ當リテハ必シモ其ノ三者ノ氏名ヲ明
 カニスル下ヲ要セス自己ノ死後生存スル妻即チ寡婦或ハ遺族トカ
 去テカ如ク單ニ或ル關係ニ立ツ人ヲ表示スルノミニテモ可ナリ
 苟モ特定セル人タル下ヲ認識シ得ル程度ニ於テ表示スレハ足レリ
 尙ホ指定當時現業ニ其人カ生存セストモ下故發生ノ時迄ニ生ル可
 キモノヲ保険金受取人ト定ムル下モ之ヲ妨ケス
 被保険者ニ在ラサル人ヲ保険金受取人ト定メタル場合ニ於テ其ノ
 受取人カ死亡セハ保険契約者ハ更ニ保険金受取人ヲ指定スル下ヲ
 得可シ（四二八条ノ三ノ一項）
 若シ此ノ場合ニ更ニ指定セシメテ保険契約者カ死亡セシムルカ保険金
 ノ支払ヒヲ求メ得ル権利者ハ保険契約者ノ相續人カ或ハ又先ニ指
 定セラレタル保険金受取人ノ相續人カ判断ニ苦シマサルヲ得ヌ
 何者一面ヨリスレハ保険契約者カ更ニ指定セサルハ婚嫁始メヨリ
 亦三者ヲ指定セザリシト同一ニ看做ス可ク從テ保険契約者ノ相續

人カ保費金請求者ナリト解ス可キナレ共他ノ一面ヨリ見レハ保
 險金請取人ノ死ヒシタルカ爲メ保費契約者ハ更ニ他人ヲ指定シ得
 可キニ相テス上ヲナサスシテ其マ、ニ経過セルハ先ノ保費金受取
 人ノ相続人ヲシテ受取ラシムル意思ナリト推定シ得ルヲ以テナリ
 我内法ハ後ノ見解ヲ採リ右ノ如キ場合ニハ保費金受取人ノ相続人
 カ保費金ヲ受取ル可キモノナリト定メタリ（四二八条ノ三ノ二項）
 保費契約者カ保費契約ノ後ニ於テ保費金受取人ヲ指定スル場合若
 クハ変更スル場合ニハ其ノ指定又ハ変更ヲ保費者ニ通知スルニ非
 サレハ保費者ニ対抗スルコトヲ得ス（四二八条ノ四ノ一項）
 尚ホ以テ保費契約カ被保費者ノ死ヒスル中ニ保費金ヲ支払フコトヲ
 定メタルモノナルハ右ノ保費金受取人ヲ新ニ指定シ又ハ変更ス
 ルニ當リ被保費者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス（四二八条ノ四ノ二項）
 之レ被保費者ノ死ヒテ故意ニ惹起スルノ危険ヲ虞レタルニヨルモ
 ノトス

（保費者ハ四）

保費金受取人トシテ指定セラレタル第三者ハ保費契約ノ利益ヲ
 享受スルハ故ニ保費金ニ就テ請求スル権利アルハ勿論ナレ共尚其
 他ニ被保費者ノ自殺決闘等ニヨリテ死亡セル場合ニ保費者カ損失
 ス可キ積立金ニ就テモ之ヲ請求シ得ル権利アリト解スルヲ正当ト
 ス 然レ共我内法ハ此積立金ハ保費契約者ニ支拂ハル可キモノト
 定メタリ（四三一）

前述ノ如ク第三者ハ独立シタル権限ヲ取得スルモノニシテ敢テ
 保費契約者ノ権利ヲ承継スルモノニ非ルカ故ニ其権利ヲ主張スル
 ニ當テ保費契約者ク原告若クハ被告トシテ保費者トノ間ニ訴訟ヲ
 ナシ其訴訟中ニ死亡シタル事實アリトスルモ第三者ハ受継ノ手續
 ヲナス可キモノニ非ス 又斯ル訴訟カ繫属シ居レリトテ第三者ヨ
 リ訴ヲ起スニ當リ保費者ハ権利相束ノ抗辯ヲナシ得可キモノニモ
 非ス 尚第三者ハ保費關係ノ外ニ立ツモノナレハ特別ノ委任無キ
 以上保費契約關係ニ影響ヲ及ヌ可キ意思表示殊ニ新ナル約款ヲ承
 認スルカ如キハ爲シ得可カラズ 又保費者ハ第三者ノ請求ニ對シ
 保費關係上ノ債權ヲ以テ相殺ヲナストハ得ナリト雖モ保費契約者

ニ對スル保險關係以外ノ債權ヲ以テ相殺ヲ主張スルコトヲ得サルナ
リ 如斯第三者ノ請求權ヲ排立性ヲ有スル結果トシテ保險契約者
カ死亡スルハ破産スルモ此請求權ハ保險契約者ノ相続財産ニ在スル
モノニモ非レハ破産財團ニモ組入ラレ可キモノニ非ルナリ

第三者ハ保險契約者ニモアラザレハ被保險者ニモアラザルヲ以
テ權利義務ヲ負擔スルコトナク其他保險契約ヨリ生スルトコロノ
義務ヲ負擔スルコトナシ 尤モ第三者カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シ
タルトキハ保險金ノ支拂ヲ受クルヲ得ス(四三一第一項)

保險契約締結後保險契約者中保險金ノ受取人ヲ指定シ又ハ変更
スルハ即チ契約ノ内容ヲ変更スルモノタルヲ以テ相手方タル保險
者ノ同意ヲ得サレハ効カザ生ス可キモノニ非ス 其然保險金ノ受
取人カ何人タルカハ保險者ノ方ヨリシテハ實ハ利害關係無キコトナ
ルヲ以テ法律ハ保險契約者ノ意思表示ノミニテ効カザ生スルモノ
トシ即チ通知スルハ足レリトセリ 尤モ此通知ハ相手方ニ到達ス
ルニ非レハ効カザ生スルコトナシ

遺言ヲ以テ保險金受取人ヲ指定又ハ変更スルコトモ之ヲ得ケス

前記四二八條三ノ第一項ニ保險契約者カ前項ニ定ムル權利ヲ行
ハスニテ死亡シタルトキトアルハ何等ノ意思表示ヲナサズシテ
死亡シタルトキヲ意味スルモノニテ遺言ヲ以テ指定又ハ変更ノ
意思ヲ表示シタルトキハ權利ヲ行使スルモノト斷言可キナリ 而
シテ遺言ヲ以テ指定又ハ変更セシタルハ保險金受取人ノ法律上ノ地
位ハ前記ノ生前財團ニテ定ムルル保險金受取人ノ地位ト同義ナル
ト云フ可キモノトス

保險契約者カ第三者ヲ保險金受取人ト指定又ハ変更シテ遺言
示シ以テ変更ノ權利ヲ保留シテオキタルトキハ其第三者カ保險金
承継ヲ確定ニ取得スルハ保險契約者カ其繼承權ヲ行使セシメテ
死亡シタルトキニナリ 故ニレテ此ハ第三者ノ權利ハ權利ノ一
ノモノノ其第一項ノ希望權ニ在リ 茲論者ハ保險契約者カ変更
權カ保留セザルトハ前記第三者ノ取得權ハ權利ハ希望權ニ在リ
テ其權利保險契約者ノ死亡シタルトキニ始テ行使取消スルコト
ナリナリトス 又下ノ解釋ヲ採ル如斯解釋セハ此權利ハ第三者ノ
死亡シタルトキニ始テ行使取消スルコトナリ 然レニ保險金

ニ對スル保險關係以外ノ債權ヲ以テ相殺ヲ主張スルコトヲ得ザルナリ
如斯等三者ノ請求權ハ獨立性ヲ有スル結果トシテ保險契約者
カ死亡スハ破産スルモ此請求權ハ保險契約者ノ相続財産ニ在スル
モノニモ非レハ破産財團ニモ組入ラレ可キモノニ非ルナリ

第三者ハ保險契約者ニモアラザレハ被保險者ニモアラザルヲ以
テ權利義務ヲ負擔スルコトナク其他保險契約ヨリ生スルトコロノ
義務ヲ負擔スルナシ 尤モ第三者カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シ
タルトキハ保險金ノ支拂ヲ受クルヲ得ス(四三二第一項)

保險契約締結後保險契約者中保險金ノ受取人ヲ指定シ又ハ変更
スルハ即チ契約ノ内容ヲ変更スルモノタルヲ以テ相手方タル保險
者ノ同意ヲ得サレハ効力ヲ生ス可キモノニ非ス 共然保險金ノ受
取人カ何人タルカハ保險者ノ方ヨリシテハ實ハ利害關係無キナ
ルヲ以テ法律ハ保險契約者ノ意思表示ノミニテ効力ヲ生スルモノ
トシ即チ通知スルハ足レリトセリ 尤モ此通知ハ相手方ニ到達ス
ルニ非レハ効力ヲ生スルナシ

遺言ヲ以テ保險金受取人ヲ指定又ハ変更スルコトモ之ヲ得ケス

〔保險法四〕

前條ニハ條三ノ第一項ニ保險契約者カ前項ニ定ムタル權利ヲ行
ハスニテ死亡シタルトキトアルハ何等ノ意思表示ヲナサズシテ
死亡シタルトキヲ意味スルモノニシテ遺言ヲ以テ指定又ハ変更ノ
意思ヲ表示シタルトキハ權利ヲ行使スルモノト斷言可キナリ 而
シテ遺言ヲ以テ指定又ハ変更セシムルハ保險金受取人ノ法律上ノ地
位ハ前條ノ生前應得分ニテ定ムルハ保險金受取人ノ地位ト同等ナル
トモニ照キモノトス

保險契約者カ第一者ヲ保險金受取人ト指定又ハ此を特別ノ遺言表
示ヲ以テ変更ノ權利ヲ留保シオキタルトキハ其第三者カ保險金請
求權ヲ遺言ニ取得スルハ保險契約者カ其遺言行使セヨシテ
死亡シタルトキニアリ 故ニレシテハ第三者ノ權利ハ權利ノ一
ヲモノノ其第一推ノ存留權ニ在リ 或論者ハ保險契約者ニ變更
權カ留保セザルトキハ第三者ノ取得權ハ權利ハ遺言ニ在リ
又或論者保險契約者ノ死亡ニヨリテ遺言行使權ヲ遺言ニ在リトシテ
ハナレドモ又キス下ノ遺言ヲ採ル共知遺言ニハ此權利ハ第三者ノ
死亡ニヨリテ遺言行使權ヲ遺言ニ在リトシテ採ルニ在リ 然レニ保險金

受取人カ死ヒスルモ其相続人、権利ヲ取得スルコト無ク保険契約者ハ更ニ隨意ニ保険金ヲ受取ルモノヲ指定シ得ルヲ以テ(四)ニハ

ノ三ノ一ノ論者、見解ハ正当ナラス
保険金受取人トシテ指定サレタル第三者カ此権利ヲ放棄シ又ハ或理由ニヨリテ権利ヲ取得セザルトキニハ何人カ保険金ノ支拂ヲ受クベキ権利者ナリヤ 抑モ第三者ヲ保険金受取人トシテ指定スルコトハ其ノ事ニ當リ利益ヲ計ルノ目的ニ出ツルハ勿論ナレ共之ノ内
際ニ保険契約者自身ノ利益ノ爲ニモナサレハモナリ 故ニ領得
時、遺言ヲ以テシテ遺命ニハ保険金請求権ハ保険契約者ニ屬スルモ
、トシテ保険契約者カ同時ニ被保険者ニシテ死在シタリトシ
其保険金請求権ハ其相続人ニ相続時ニ移ル可キナリト解ス
此等論者トス

保険金受取人トシテ指定セザルモノハ保険金請求権ノ發生又ハ保険契約者ノ生存ノ中即被保険者ノ死亡、トキニヨリテ此時
ニ保険金請求権カ移リ被保険者ノ遺言ニ準テ移ル可キト解ス 故
ニ保険契約者カ同時ニ被保険者ニシテ死在シタリトシテ其保
険金請求権ハ其相続人ニ相続時ニ移ル可キナリト解ス

(保険九四)

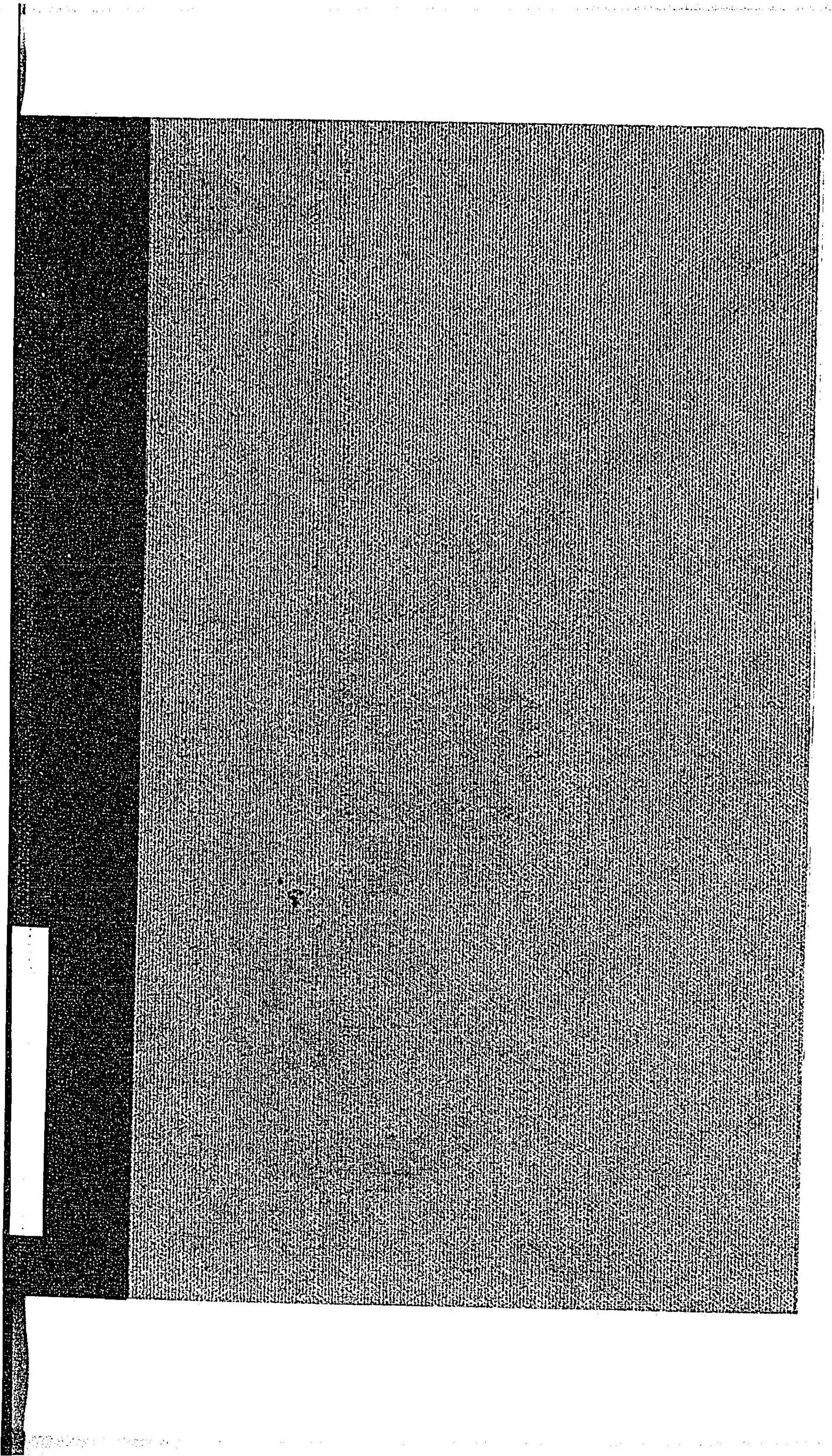
又其ノ第三者ノ相続人ニ保険金請求権ノ移ル可キ理無シ 又被保険者ノ死亡ノトキニ第三者カ未タ生レザル場合モ同様ナリ

第三者ノ爲ニスル契約ニ於テハ第三者ハ契約上ノ利益ヲ享有ス
コト雖モ其第三者ノ意思ニ反シテ利益享有ヲ確ニル能ハザルカ故
ニ被保険者ノ死亡ニシテ、第三者ニ一旦権利發生スルモ其第三者
カ権利ヲ放棄ヒント欲セハ是ヨリ自由ニ之ヲナシ得ベシ 故ニハ
其放棄ノ意思表示、何人ニ對シテナス可キト云フニ之ハ保険者
ニ對シテナス可キ也 保険契約者スハ其相続人ニ對シテナス可キ
モノニ非ス、保険事故發生前ニ志カ権利放棄ノ意思ヲ表示ス
ルモ其ハ任意ニシテ法律上何等ノ效果ヲ生スルモノニ非ス

保険契約カ如何ナク又、解除セラレザル限リ保険事故發生セハ
保険者、其ノ何カシテ其ハ可カラザルハ勿論ナレ共法律ハ
其ノ他ノ事由ニヨリテ保険事故ノ發生シタル場合(三九五)ニ
三)ニ、保険者カ自技又或他犯罪又ハ元利ノ履行ニ由リテ死

保
險
結
算

3037
30



特70

153

保險法

国立国会図書館

035450-000-1

特70-153

保險法

三橋 某/述

〔刊年不明〕

BBO-0650

